

第24回

木のあきらし

木文エナル

にゅう せん
入選
さく ひん しゅう
作品集



主催：  一般社団法人 日本木造住宅産業協会

共催：  住宅金融支援機構
Japan Housing Finance Agency

後援：国土交通省・文部科学省・農林水産省・環境省・外務省・朝日学生新聞社

ごあいさつ

一般社団法人日本木造住宅産業協会 作文コンクールは、今年で二十四回目を迎えることが出来ました。小学生を対象に、日常生活の中にある身近な「木」を題材として「木のある暮らし」をテーマに実施しており、作文を通じて木や森、そして環境のことに興味を抱いてほしいという我々の思いが込められています。

この一年十カ月あまり、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、日々の生活にも様々な変化がありました。学校生活では、臨時休校や分散登校など慣れないこともあったと思います。オンライン学習を初めて経験した人もいるでしょう。夏休みになっても家族旅行に行けなかったり、田舎のおじいちゃん、おばあちゃんに会いに行くのを我慢したりする日々が続いたことと思います。そのような状況でも、日本全国九六五校の小学校と特別支援学校七校、海外からも五か国六校の日本人学校を通じて、合計六、〇八五作品の応募をいただきました。多くの素晴らしい作品に支えられ無事にこの作品集の発刊が出来ましたのも、ひとえに、ご指導をいただいた先生方はじめ、保護者、関係者の皆様のご支援があったることと感謝いたしており、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

近年、木の良さが見直され、住宅だけでなく大型建築物にも木材が使用されるようになりました。「木のある暮らし」は多岐に亘り、応募作品の中には単に木の持つ効果・効能だけでなく、人や社会に与える影響をつづった作品も増えてきました。また、木を通して、家族や友人との繋がりを感じたり、長寿の樹から歴史や先人の想いを学んだりするなど、小学生とは思えない豊かな表現力と純粋な視点に驚き、心を打たれました。どの作品も個性にあふれて素晴らしく、原稿用紙に向かって一生懸命書いている皆さんの姿が浮かびました。審査員の先生方も受賞作品を選ぶのに頭を悩ませておられました。この作品集で紹介できるのは全六、〇八五作品の中のほんの一部です。受賞作を公表できる喜びを感じる反面、素晴らしい応募作品のすべてを掲載できないことが残念です。

多くの作品に描かれているように、木は人にやさしい素材です。木は再生可能な資源であり、その成長過程で地球温暖化の要因となる二酸化炭素を吸収し、酸素を供給してくれます。木を植えて、育てて、伐って、また植えてといった循環をつくることで、地球環境の保全と持続可能な社会の実現に寄与し、自然災害の規模の拡大を防ぐことができます。

今を生きる私たちは、人がいつまでも木や自然に感謝し寄り添って生きる未来を残していかなければなりません。引き続き、当協会は木の住まいを通じて地球環境を保全し、そして、「木のある暮らし」を次世代に伝えていくことをお約束いたします。

最後になりましたが、本コンクールにご後援をいただきました国土交通省、文部科学省、農林水産省、環境省、外務省、住宅金融支援機構、朝日学生新聞社ならびに教育委員会をはじめとする学校関係の方々、コンクール実施にご尽力いただいた関係各位に重ねて御礼申し上げます。

令和三年十月吉日

一般社団法人 日本木造住宅産業協会

会長 市川 晃



第24回

木の^きあるくらし

さくぶん
竹^{たけ}文^{ぶん}工^{こう}館^{かん}





受賞者一覧



国土交通大臣賞

低学年の部

「ひいおじいちゃんのつくったいえ」

千葉県 田中 波音さん

高学年の部

大工さんに教わったこと

愛媛県 矢野 有花さん



文部科学大臣賞

低学年の部

二本のうめの木

鹿児島県 高津 渚紗さん

高学年の部

木がつなぐ素敵な未来

千葉県 松本 美春さん



農林水産大臣賞



低学年の部

「ぼくのさくらんぼの木」

福井県 福田 将大さん

高学年の部

見えない力

千葉県 杉野 愛梨さん

環境大臣賞

低学年の部

どんぐりの木

東京都 園田 愛花さん

高学年の部

「保全活動を通して私が学んだこと」

滋賀県 谷澤 あかりさん

外務大臣賞



低学年の部

お父さんは木工職人

秋田県 石川 真衣さん

高学年の部

東京オリンピックと日本の木

海外(ベトナム) 浜野 七海さん

住宅金融支援機構理事長賞

低学年の部

まきストーブのある暮らし

兵庫県 石野 心晴さん

高学年の部

家族を見守る大きな木

東京都 黒部 優菜さん





日本木造住宅産業協会会長賞



低学年の部

ヒマラヤスギの木

京都府 園 理香子さん

高学年の部

ビワの木

埼玉県 阿部 心咲さん



朝日小学生新聞賞

低学年の部

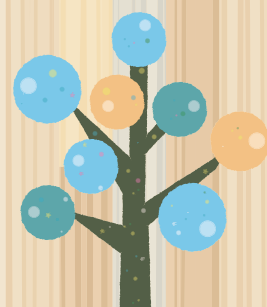
おとうさんのくつ下の木くず

兵庫県 坂本 陽菜さん

高学年の部

心地よい響きとは

福岡県 小田 孝太郎さん



審査員特別賞

低学年の部

「もものき」

福島県 渡邊 彰人さん

高学年の部

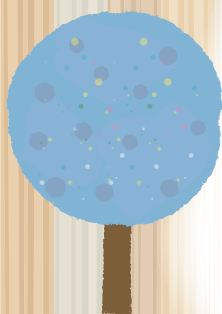
大切にしたい ぼくらの校庭

千葉県 小寺 慎之助さん

高学年の部

帯広の森「はぐく一む」

北海道 佐々木 優都さん



東北ブロック

ケヤキ賞

低学年の部

わたしのいえ

福島県 鈴木 穂香さん

ケヤキ賞

高学年の部

わたしの木の家

福島県 谷中 こころさん



北信越ブロック

マツ賞

低学年の部

わたしとおばあちゃんのかきの木

福井県 清水 杏珠さん

シラカバ賞

高学年の部

皆で作った木の遊び場
ツリーハウス！

長野県 塚田 莉奈さん

中部ブロック

神宮スギ賞

低学年の部

わたしの家

三重県 玉木 心結さん

ハナノキ賞

高学年の部

お父さんと木の家具

愛知県 加藤 淳さん

北海道ブロック

エゾマツ賞

低学年の部

木と私たちとのかかわり

北海道 笹谷 栞さん

エゾマツ賞

高学年の部

季節を感じる楽しい校庭

北海道 隈本 香凜さん

関東ブロック

イチョウ賞

低学年の部

「きもちをつなぐ木」

東京都 木村 涼花さん

クロマツ賞

高学年の部

日本の木造建築

群馬県 天田 有紀さん

甲・静岡ブロック

モクセイ賞

低学年の部

木の名前しりとり

静岡県 近藤 穂乃花さん

モクセイ賞

高学年の部

オリーブの木にこめた
平和への願い

静岡県 原 緋奈乃さん

四国ブロック

やまもも賞

低学年の部

ふしぎなたけ

徳島県 多田 紗耶加さん

マツ賞

高学年の部

時代をこえて

愛媛県 近松 叶さん



近畿ブロック

ウバメガシ賞

低学年の部

私と木のかかわり

和歌山県 石井 香流さん

クスノキ賞

高学年の部

「音のゆくえ」

兵庫県 宮崎 純大さん

中国・九州・沖縄ブロック

アカマツ賞

低学年の部

木のあるしごととおとうさん

岡山県 矢野 みやびさん

つつじ賞

高学年の部

私の宝物

福岡県 竹田 舞子さん

団体の部

最優秀団体賞

福島県 矢吹町立矢吹小学校

優秀団体賞

富山県 富山市立上条小学校

奈良県 橿原市立畝傍南小学校

北海道 江別市立対雁小学校

千葉県 栄町立竜角寺台小学校

学校のプールの木

秋田県 鎌田 夏帆さん

やわらかい木のテーブル

福井県 島田 晴生さん

「ぼくたちの紙」

神奈川県 新倉 将希さん

大阪府 茨木市立玉島小学校の11名の皆さん

僕の木の家

東京都 照内 悠太さん

木のくらし

東京都 新村 響希さん

木とセミと私

東京都 梶田 夏帆さん

特別賞

佳作

低学年の部

木は、みんなのいえ

ドイツ連邦共和国 井上 湊大 さん

もちまきをしたよ

鹿児島県 奥山 賢人 さん

木のぬくもり

熊本県 菊田 銀之介 さん

わたしの家のこと

福島県 岸 眞悠子 さん

ぼくのあいぼう

埼玉県 倉林 祐助 さん

わたしのパパは大工さん

鹿児島県 木場崎 叶灯 さん

「大すきな木」

岡山県 小見山 岳琉 さん

さくらの木って、いいな

長野県 佐邊 想祐 さん

おじいちゃんの大切な木

茨城県 高木 駿 さん

そ父母の家の大切なかしの木

福島県 長峯 和賀子 さん

わたしも見つけない

鹿児島県 比良 優月 さん

「わたしのひみつの木のお家」

京都府 藤田 心葉 さん

わたしの町の木について

鹿児島県 山下 梨夏 さん

大きなユズリハ

茨城県 渡邊 莉咲 さん

高学年の部

「ひこばえ」

佐賀県 江頭 和佳 さん

カウリの木と縄文杉のご神木

ニュージーランド 大野 泰輝 さん

笑顔のにおい

千葉県 金澤 心和 さん

元気になる割りばし

愛媛県 河野 晴哉 さん

おばあちゃんの家の香り

和歌山県 佐藤 愛美 さん

未来に繫ぎたい桜の木

山形県 柴田 凜 さん

木は二度生きる

千葉県 菅谷 歩叶 さん

「背くらべの木」

福島県 瀧田 和奏 さん

いらっしゃいの香り

佐賀県 武富 悠真 さん

木のあるくらし

福島県 長沼 優杜 さん

三千年前の大きな柱

福島県 中野 未来 さん

おじいちゃんの木の家

福井県 淵上 克 さん

ご先祖様からのメッセージ

群馬県 星野 真子 さん

ぼくのつくえ

群馬県 諸田 旺雅 さん

わたしの三味線

広島県 山崎 杏 さん





千葉県 田中 波音さん

「ひいおじいちゃんをつくったいえ」

「ひいおじいちゃんをつくったいえ」

田中 はのん

私には、ひいおじいちゃんがつくったいえがあります。ふだんはだれもすんでいないけれど、まい年、お正月にかぞくで行きます。おばあちゃんはずっとないいえであまりすきではないけれど、おじいちゃんは大すきです。

そのいえは、大工のひいおじいちゃんがつくったいえです。にんじや、やしきのようななくしとびらがあって、ひいおじいちゃんの大工どうぐや、おじいちゃんがつくったいえは、くぎをいれる木のはづや、木のますなどたくさんあるのがたくさんあります。

そのいえには木のはしらがたくさんあって、木のいえではできないはしらのほりであそびます。かくれんぼもしました。そして、へやの上に木のきれいなもようがあります。「うんま」というのだとおじいちゃんがおしえてくれました。にあって木のほりをしてたり私のお

きに入りひみつきちです。

だいて今年のおきいそのいえをうしきうにすることになりました。まわり大きなマシソンがたくさんあって、かいはずをするからとわれました。なつ休みにいえがなくなるさいごのきねんに、おじいちゃんとそのいえに行きました。「ほんしんだいしんさい」がおきだときもわねなが、たいて、ひいおじいちゃんとおばあちゃんかひなんしていたいえだとおじいちゃんがかなしそうにいいました。私もなんだかたふしくなりました。

「もうすてるから」とおじいちゃんがいうと、しんせきがきて、おばあちゃんのおめりどうぐの「きり」のタンスや、私がいつもあそんでいた木のはこなどを、てい、ていまいしました。いろいろなものがたくさんあったおうちですが、もうなにもありません。しんせきからは「こんないいものありません」と。木でできたものはじょうぶだからうれしい

「とおれいといわれました。おじいちゃん、木はながくつかえて、こんどは新しい人のもとでまたくらすんだよ。あたらしいもち主が見つかってしあわせだよ」と言っていました。私は、自分がおそんでいたものがなくなっただけで、ほんとうはくやしけれど、大すきないところのお姉ちゃんがよくて、いるのでよかったと思いました。

今、私のうちには、ひいおじいちゃんといえから、てかえてきた木の長もちがあります。長もちの中に私の大好きな本やたからものをいれています。私の新しいひみつきちです。今どは私が大せつにつか。ていくばんです。私が、とお姉さんにな。てからもずつつか。て、次はいもうとや、私のふどもにわたしてあげられたらいいな。ガラスやプラスチックとちがって木はじょうぶです。だからこそ大じにしたいし、あたたくくて、ひいおじいちゃんのおはなしを思い出す木でできたものが、私は一ばん大すきです。



愛媛県 矢野 有花さん

大工さんに教わったこと

大工さんに教わったこと

矢野 有花

私がこの家に住み始めて、五年が経ちます。私は保育園の年長のときに、川之江に引っ越してきました。それまでいっしょに遊んでいたようち園の友達と、はなればなれになるのは、とてもさみしかったです。でも、自分たちの新しい家がでけるのはうれしくて、とても楽しみでした。

家が建ち始めると、休みの日に家族で、家を見に行きました。建っている中の家は、木の香りがいっばいしました。あちこちに、長い柱や太い柱、細い柱があって、家を作るためには、こんなにたくさんのお木がいるんだとおどろきました。木のけずりかすは、さわるときさらさらしていて、気持ち良かったです。覚えています。

私の家を建ててくれた大工さんは、とてもやさしい人でした。家を建てていたのは夏だったのですが、いつも暑い中、あせを流しな

がら作業をしていました。そして、私たちが行くとき、仕事の手を止めて、いろいろな話をしてくれました。弟が、たくさん積み木で遊ぶ木に興味を持って、木をさわっているとき、大工さんが、

「ちょっと待ってよ。」
と言って、木のはしっこの部分を小さく切って積み木を作ってくれました。少し長い積み木、短い積み木、いろいろな積み木があって、私も弟もよろこびました。積み木から木、木のいい香りがして、私たちにとって、特別な積み木になりました。

他にも大工さんは、

「ここに置いて。」
と言って、私たち家族を階段になるところに呼ぶと、太い柱を指さして

「この柱は、太くてじょうぶな柱だよ。この柱に、家族みんなの名前を記念に書くといいよ。」

と言って、名前を書かせてくれました。家が

完成した今は、柱は見えません。でも、自分たちが名前を書いた柱があると思うと、なんだかうれしい気持ちになります。

大工さんとお会ったとき、私はまだ保育園の年長でした。今は小学校の五年生。あのときは分からなかったけど、今、思うことがたくさんあります。大工さんがやさしかったこと。いつも一生けん命、お仕事をしていたこと。そして、大工さんから学んだこともあります。それは、どんなことでも、どんな風にするか。『どう取り組むか』ということが大切だということ。自分のするべきことをたどるのではなく、相手の気持ちを考えて相手のよろこぶことができたらいいなと思います。

私は、木のぬくもりと、大工さんのやさしさがつまりました。自分の家が好きです。私も周りの人を幸せな気持ちにできる人になりたいです。そして、またいつの日か、あの大工さんに会いたいです。

低学年の部

文部科学
大臣賞

鹿児島県

高津

渚紗さん

二本のうめの木

二本のうめの木

高津 渚紗

「今年もうめの実、たくさんなってるか。」
と、たね子島のばあばは三月ごろになると毎年電話をかけてきます。

あたしのわには、大きな二本のうめの木がならんで立っています。そのうめの木は、百才くらい年をとっています。木のすきにはこけや植物が生えていて、さあるとかわがわがポロポロ落ちてきます。近所のおじいちゃんか

ここに家をたてた時もこの二本の木はあって、よくうめをもらっていたそうです。二本あるうちの一本はみき外少したおれて、ねじれています。でもたくさんの実をつけてくれていきます。わたしたちは、その実を使、てうめぼしやうめ酒やうめジャースを作っています。わたしは、こしてくる前に仕込んでいた人たちも、このうめの実でうめ酒やうめぼしを作っていたそうです。昔からこの二本のうめの木は、ずっと同じ場所にある。未来はどんな人

たちか実をとりにくるのだろうと考えています。そしてそれ外今、わたしたちなので。昔と同じようにうめ仕事をしています。

ばあばは、うめをとる事をとても楽しみにまっています。ばあばの作るうめぼしはさいうにおいしいです。とくにごはんといっしょに食べると何ほいでも食べられます。食べるとうめぼしをお友だちにあげたり、じいのおべん当に入れるそうです。少しつかれた

時は温かいお茶にうめぼしを入れて、ほしてつぶしてのむそうです。

「なんだか元気かですのよ。」
と言っています。わたしもおやつに自分で作

てのんでいきます。昔は実外なる木がある家はゆたかで、人が集まると言われていたそうです。動物たちもたくさん遊びに来ます。いつもうめの木には、すずめかたくさんとまっています。そのほかにモリギリ入やセミなどの昆虫もたくさん

ん来ています。あたしはいつたまごから、すずめさんたちは何をしているのだろうとワクワクしながら見ています。木の下に草外たくさん生えているので、うめの木はくすぐたかないのかとも思っています。ハツタも元氣にはなっています。風外ふいている時は、みんないっしょにおび、ているようにも見えます。

この木の下にいとみんな外自せんとえ顔になりおこる人はいません。妹外傘をさしてスキップしながらうめの木にや、て来たたり、

ばあばもニコニコしながらうしをかぶってや、てきたりします。うめの木が、え顔にな

るまほうをかけているのかもしれません。このうめの木外あるとみんなの生活と心がいあわせになります。あたしに家族外できてこのうめの実でうめ仕事をっつけていたかと思、ています。うめの木さん、未来に来た人外あたしでよかったですか。

高学年の部

文部科学
大臣賞

千葉県 松本 美春さん

木がつなぐ素敵な未来

木がつなぐ素敵な未来

松本 美春

私の母は、木のいすを大切に手入れし、なぜか手入れの最後になでている。それも、うんと優しい顔をしながら。なぜそんな事をするのだろう。いすは心も感情もないのに、私は不思議だった。

「物を大切にする。きれいに手入れをする。それは分かる。でも、優しい顔をしながら

まるで子犬をなでるようにいすを優しくなでる母は、少しおかしい・・変だ。

と、私はずっと思っていた。

今日もいつものように、母はいすを大事に手入れをしている。私は、思いついて母に話しかけた。

「お母さん、そのいす大好きだね。いつも手入れの最後にいすをなでているよね。」

すると、母は照れくさそうに、でも嬉しそうに、優しく微笑みながら話し始めた。母はこ

の木はいすに座り、食事をする私が大好きだと言ってくれた。美味しそうに沢山食べる私を見ると、とても安心するそうだった。母が妊娠した時に、卵巣に悪性の腫瘍が見つかった。そのため、私を産むことは難しいことだった。という事実を私は知った。でも、母は絶対に私を産みたいと強く思い、手術にたえた。無事に私が生まれた時は、喜びと同時に安心した涙が出たそうだった。そして、このいすは父と母が二人で、私のために選んでくれたものだ。

た。ぬくもりがあり手触りもなめらかで、ほのかに香る木のいす。見つけた時にあたたかい気持ちになったそうだった。初めて離乳食を食べた時も、このいすに座っていた。今日までずっと私はこのいすに座って、食事をして、勉強もしている。母はこのいすを手入れするたびに、私の小さな頃のことを思い出し、木のぬくもりも感じながら優しい気持ちになるそうだった。このいすが私と同じようにかわいくてたまらないと母は言う。でも、いすをなでるの

はおかしいと私は思った。だけど、それほどに私のことを思い、このいすも大切にしてくれていることが分かった。私は胸がいっぱいになった。そう言えば、今でも母は高学年になった私の頭をなでる。本当は、私はもう高学年のお姉さんだから恥ずかしくてやめてほしいけど、今ならその母の気持ちが分かる。「お母さんが安心出来るように、このいすに座って沢山食べて、沢山勉強して、沢山運動もして、心も体も健康でいるからね。」

と、私は心の中で母に約束した。

このいすは母の丁寧な手入れのお陰で、これからずっと長く使えそうだった。私の未来の子供にも使ってもらいたい。私も母のように強く優しい母親になれるだろうか、なりた

い。私も母のようにぬくもりがある木のいすに子供の成長を重ね、いすをなでる日が来るだろう。私と木のいすのとても素敵な未来だ。



福井県 福田 将大さん

「ぼくのさくらんぼの木」

ぼくのさくらんぼの木 福田 将大
ぼくの家には、大切な木があります。それは、さくらんぼの木です。さくらんぼの木は、ぼくの木で、ぼくが小学校に入学した時の思い出に、町からもらったものです。さくらんぼの木は、もらった時はぼくと同じくらいの高さの小さな木でした。さくらんぼの葉がなると、とてもうれしかったです。
もらってすぐにお母さんが買ってきてくれた植木鉢に植えました。育て方がよく分かったので、お母さんがしらべたら、さくらんぼは、ちがうしゅるいの木というふうに育てないと、実がならないということが分かりました。ぼくは、びっくりしてしまいました。お母さんは、
「入学と同時にもう、てきたから、自分が大きくなるのと同じように、この木もそだてていくね。一本では、実がならないけど、きれいな花がさくから、楽しんで育てよう。」と、言うてくれました。ぼくは、実がならない

いのばせんねんだけれど、花が見られるくらいいかを、と思って育てることにしました。
ひりょうをやって、毎日水やりをしました。何日かたったある日の朝、学校に行く前に、白くて桜の花によく似た花が一こさいたのを見つけました。はじめ自分の育てた木に花がさいて、うれしかったです。しばらくすると、ぼつぼつとほかのえだにも花がさきました。とてもきれいだと思いました。
その花がせんぶがれると、小さな緑色のつぶかでぎました。十こくらいありました。そのつぶは、五月になると、だんだん大きくなって少し赤くなっていきました。実はでぎないうちで、いつかたの、何だろうと思いましたが、二週間くらいすると、一センチメートルくらい、オレンジ色のさくらんぼになりました。実は、実がならないと思っていたので、びっくりしたけれど、とてもうれしかったです。一こずつ食べてみると、すっぱいけれど、さくらんぼのあいでした。もう少しおいでおう

と、赤くておいしそうに思いました。
お母さんと調べてみると、一本の木でも実がなるし、ういもあるのだと分かりました。いっしょうけんめい水やりをしてよかったです。思いしました。
二三年目の今年は、木の高さはぼくよりずっと高くなりました。ひりょうや水をやりたり、毛虫がついて葉っぱを食べてしまうので、とりのぞいたり、せわをするのはたいへんだけれど、毎年実をつけてくれるので、ぼくは、がんばって世話をしています。
四月にはたくさん花がさきました。ぼくが小学校でたくさんでることもふえたみたいで、さくらんぼの木もかんばつたいるんだか、と思いました。実も数えきれないくらいたくさんなりました。下の方の実は、カラスがやってきて食べてしまったけれど、さつとおいしいからだと思います。こ
これからぼくのさくらんぼの木を、大切に育てていこうと思います。



千葉県 杉野 愛梨さん

見えない力

見えない力

「森の中では雨にぬれないよ。」

杉野 愛梨

木々の間からのぞく六月の空に、音を立てて降り始めた雨。時どき小さな水滴が頭に触れるだけで、冷たく感じない。

私達家族は都心から約二時間、奥多摩湖のその奥に位置する森の湧流り滝にやってきました。森を守る活動をしているNPOのお兄さんに

会いに来たりだ。きっかけは父が伐った一本の木。

「どうだ、頑張ってたんだぞ。」

樹齢六十一年の杉の木を伐るボランティアをした父。その木の枝を輪切りにしたものを記念にいただいたと、得意そうにリョウクから出し、私に見せてくれた。杉の木が放つほのかに優しい香りは、心がやすうぐ。

「ふーん、良かったね。」

そう素っ気なく言いながらも、楽しそうに話

す父の話にとても興味をわいてきた。真っ直ぐにそびえ立つ杉の木に迎えられた自分を感じ描き、濃い自然の空気を、胸いっぱい吸い込む事を期待してワクワクした。

「ピーヒョ、ヒョヒョヒョ。」

日本三大名瀑であるオオルリの滝んだ声が聞こえる中、水の清らかな音が段々と近づいてくるのが分かった。はやる気持ちをおさえながら、丸木橋を渡りきると、源流部の雄滝に到着。せり出している大きな岩には力強い水

しぶきが上がっている。こんなに近くで滝を見上げるのは生まれて初めてだ。こうこうと絶え間なく流れる水の勢いに圧倒される。この滝が私達に届く水の原点なのだ。

降った雨は落ち葉のじゅうたんをつたって土の中にしっかりと染みわたる。空に向かって伸びている木々と同じくらい根が、大地を抱きしめている。目には見えない根の存在も森を支えているのだ。

今私がなっているこの杉の木は、六十年前

に未来へと繋ぐために植えられた。育てた苗木をたくさん背負い、村の人ほどんな思いで山に登ったのだらう。木を通して人々の笑顔を願って……

「ほみた、花が今日は咲いている、今日は滝の水が多いな、こんな所にきりが生えている。冬の森は光が差し込んで明るいな。森は毎日違う表情を見せてくれるんだよ。」鏡のように話を聞かせてくれた。森や木を整え自然を支える為の地道な活動をしているお

兄さんの、温かい気持ちに触れた気がした。また十歳の私は、大人になり自立をするための準備をしている真・最中。一人では木を切り森を守ることはできない私は、幹も枝も細く、五十センチ程度の弱々しい苗木の様だ。

森の中で雨にぬれないのは、そう、木々達が雨から守ってくれているから。私も両親に支えられ見守られている。年輪を刻むようにゆっくりと成長し、いつか誰かの役に立つ存在になれると信じている。



東京都 園田 愛花さん

どんぐりの木

どんぐりの木

園田 愛花

わたしの学校には、どんぐり山というすべり台やゆうぐがあるばしょがあります。どんぐり山には、もみじの木はあるのにどんぐりの木は一本もありません。そこで、どんぐり山を本もののだんぐり山にしよう！プロジェクトがわたしのクラスではじまりました。そして、そのプロジェクトは、ほかのクラスに

もひろがりました。

わたしたちは、どんぐりをたくさんあつめて、それをどんぐりぎん行にも、て行、て、どんぐりをどんぐりの苗木にかえてもら。て、その苗木をどんぐり山にうえることにしました。

クラスのみんなで、どんぐりをまい日たくさんあつめました。ほかのクラスの人たちも、どんぐりをあつめるのにきょうう力してくれました。あつめたどんぐりは、水につけて、う

いたどんぐりは、外して、しずんだどんぐりだけをとりだしてかわかし、10こづつビニールふくろに入れていきしました。そして、大きいふくろに10ふくろづつ入れて、どんぐりを100こづつまとめたら、それを大川村どんぐりぎん行にも、て行きました。

全校のみんなから九百二十九このどんぐりをもたらしました。クラスでは、二千八百六十このどんぐりをぎん行にあずけることができました。

どんぐりぎん行をはじめた高知県大川村に電話でお話を聞くと、人口が日本で一番少ない村という話や、どんぐりの苗木をそだてるには、クヌギがいいとおしえていただきました。わたしたちがあずけたどんぐりは、大川村のゆたかな自ぜんの中で大切にそだてられ苗木になるそうです。そして、毎年多くの苗木たちが全国にたひだ。て、時間をかけてせい長し、どんぐりがみえる大木にな。て未来の森林を作。ていくそうです。

わたしたちワさいでもみんなながんばればしょくじ。活どうをし、森やゆたかな自ぜんを作るこができるとわかりました。お金のために自ぜんかんきょ。うはかいをする大人がいます。未来の地きょ。うをまもるために、世かいみんなが自ぜんを大切にしなければいけないと思います。わたしは、これから自ぜんかんきょ。うのために、わたしでもできる活どうをや。ていきたいと思っています。わたしが大人にな。たときに、どんぐりの木がみど

りゆたかに世かいにひろが。て、たくさんのだんぐりの木の森があればいいなと思います。



滋賀県 谷澤 あかりさん

「保全活動を通して私が学んだこと」

「保全活動を通して私が学んだこと」
谷澤 あかり
私は滋賀県東近江市にある「河辺いきもの森」の保全活動に毎月参加しています。保全活動に来る人の数は約二十人で、様々な地域や年齢の人が協力して、森の保全活動を行っています。
私は幼稚園のころ、チラシでこの森での野外活動を知り、興味を持ち、たので申し込んでみました。そこで植物や虫の名前、竹の切り方、火の付け方など野外スキルをたくさん教わりました。小学三年生になってからは毎月行われる保全活動にも参加し、竹のはしりや、外来種の駆除などをしていきます。
保全活動の一日の流れは、まず観察会から始まります。観察会では森の中を歩き、草花の解説を聞いて、実際に見たりにおいをかいたります。観察会の後は保全活動をし、作業内容は季節によります。春はささ刈り、夏は藻刈り、秋は落ち葉かき、冬は雪

かきなどをします。ささ刈りは、植物の成長を妨げるささをかきで刈ることです。外来種のカナダモミという藻を刈る藻刈りは、レーキというフォークのような形の道具を使います。落ち葉かきは、植物の成長を邪魔する落ち葉を熊手と竹ぼうきでかきます。他にも様々な作業があります。例えば、クズというツル草の駆除やセイタカアワダチソウという外来種の草の駆除などです。
私が保全活動に参加するき、かけとなったのは、森の木の萌芽更新を行うイベントです。萌芽更新とは、成長して大きくなりすぎた木を切り、森に光が入るようにする作業のことです。もしも森に光が入らなければ、木の下に生えている植物たちが成長しなくなり、生き物の食べる草や実がなくなってしまう。萌芽更新のために切られた木の一つは野外活動のときに私がとても気に入った木で、たのでとてもさみしくなりました。しかし、しばらくしてからその切りかぶに新しい木の

芽が出ているのを見て、萌芽更新をしてよかたなあと考えるようになりました。それから森へ遊びに行、た時などは、少しずつ成長する木の芽を観察しています。
保全活動は森のためにはとても大切なことです。人の手が入、りない森は、生き物にと、て暮らしにくくなることがあります。私は昔の森の写真を見せてもら、たことがあり、ます。そこに写、りたのは今の森とは全く違い、森に光が入らず、緑の若々しい葉があまりない森でした。今、保全活動をした後、その場所を歩いてみると、森が生き生きとしていて姿をみることが出来ます。
私は自然が好きです。なぜなら、天気や季節によ、てそれぞれ違う景色を見ることができておもしろいからです。そして、それはどの景色でもとても美しいと感じます。私はこの自然の美しさをこれからも守、りていきます。そのためにも保全活動を続けて森と関あ、りていきたいと思、います。



秋田県 石川 真衣さん

お父さんは木工職人

お父さんは木工職人

石川 真衣

わたしのお父さんは、木工職人とい。て、山から切った木をけず。て、生活用品を作る仕事をしています。きかいをあまり使わず、はとんが手作。うです。だから、手にもった時のぬくもりが、ほんのり感じられて、思わずなぐたりします。

材料の木は「斧折樺」です。名前の通り、斧が折れるほどにたく、水にしずむほどおもい木です。作り方は、大体の形にのこぎりで切った後、金ごく用のグラインダーでけずっていきます。最後になめらかな手ざわりになるまで、ひたすら紙やすりで、こすりながら仕上げていくそうです。聞いているうち、頭の中にお父さんがひしに作っているすがたが、見えてくるような気がしました。それは、ふだん見るここのないお父さんのしんげんな目です。

わたしは、も中にな。て、お父さんから話

の続々を聞きました。

作っている木工品は、くし、くつべらは、し、おわん、スプーンなどです。ある日、わたしは、お父さんの作ったくつべらが、お店のウインドーにかけられていたのを見て、びっくりしたことがあります。帰ってから、そのことを話すと、お父さんは、

「くつべらは、宮内庁で宮様に使っていたんだ。いてるんだ。宮内庁御用達の品で、天皇陛下から『よい品物をありがとう』と、お言葉もいただいたんだ。」

と、教えてくれました。また、くし（かねり髪すき）は、とても頭にフィットする形で、「三次元曲線」は、七千年のくしの歴史を変えた二。ヨーグで絶賛され、世界のヘイメイクアーティストにも、高く使われているのだそうです。あまりにすごくて、わたしは何度もためにをういてしまいました。

お父さんの作った品物は、家の中にもあります。くつべらは、かかこにびたり合っています。

するりと入ります。台所にあるスプーンは、シチュエーションをむ時、口当たりがよく、金ごくのように歯に力チツと当たらないので、安んじて使うことができました。お父さんのやさしい気もちが伝わったわ。てきて、何だか心の中がほんわりしてきました。

最後は、お父さんは、いつも、使っていたくお客さんの元顔を思いうかべながら、一生使っていただけ。よう、心をこめて作っているんだよ。

と、教えてくれました。わたしは、お父さんの仕事は、大変そうだなと思、ていたけど、話を聞くうちに（お父さんと、すごい人なんだ）と、思うようになりました。

わたしは、心をこめて作られた木工品を、これからは、と使、ていきたいと思っています。そして、賢。た人たちにも、作った人の気持ちを心で感じながら、笑顔で使い続けてほしいと思います。



海外（ベトナム） 浜野 七海さん

東京オリンピックと日本の木

東京オリンピックと日本の木

浜野 七海

この夏、私はベトナムから東京オリンピックを観戦しました。テレビから聞こえるゼミの声は日本の暑さと木々を連想させました。今回のオリンピックでは、沢山の木が使われています。競技場、選手村、メダルケースなど。これらに木を使うのは何故なのでしょう。

木の良さの一つは触り心地が良いことです。

ポリエステルよりも木綿や絹が心地良いように、自然の素材には独特の温もりや柔らかさがあります。また空を見上げたり、木々を見たり、自然を目にするだけでも気持ちやすきります。木は見た目に「ほっこりした」温かみを感じさせます。人は木目を見るだけでも安らぎを感じる言われています。

木には音を響かせる効果や吸音機能もあります。木の中の沢山の管が、低音・中音・高音をバランス良く吸収して雑音をなくし、聞

こえる音をまろやかにしてくれるのです。今回のオリンピックの競技場の屋根やのきびさしに使用されているのは、この吸音機能をねらったものではないかと私は考えました。さらに、屋外エレベーターの外壁、選手更衣室内のロッカー、ベンチや選手村などにも木が使用されたのは、質感や温かみを感じられ、選手が少しでもリラックスできるように配りされた設計なのではないかと思いました。

また選手村は、神社の鳥居や祭りのみこし

に似ているなど、日本の文化を感じさせ、日本をなつかしく思いました。木はリラックス効果だけでなく、日本の文化も表現できるのだと気付きました。今回、コロナウィルスの対策のために観光することができなかった選手達に日本らしさを感じてもらうことができたのではないかと思います。

使われている木の種類も調べました。今回東京オリンピックで使われた主な木は、スギやヒノキでした。この二つの木には、香りが

りリラックス効果がありました。選手に少しでもストレスをいやしてもらいたいという理由から、スギやヒノキを多く使用しているのではないのでしょうか。また、屋根には竹が使われていました。竹には日光をしっかりと断しながら風を通す効果があり、室内に熱を通しにくく、暑さを防ぐなど、選手や関係者への暑さ対策にもなっているのです。選手達への気遣いを感じるとともに、日本の木の種類の多さと使われ方の違いに驚きました。

世の中が便利になればなるほどストレスを抱える人が増えていくように感じます。これには、木に触れ見る機会が少なくなっていることが関係しているのではないのでしょうか。選手村で使われた木々は各都道府県に返却され、公共の場、主に子供達が使用する場所で再利用されるそうです。次回、日本に帰国した際はその木々がどのように再利用されたのかをめぐり、実際に触れてみたいと思います。



兵庫県
石野 心晴さん

まきストーブのあるくらし

まきストーブのあるくらし
石野 心晴
マツチを出してドキドキしながら、
「シュッ」「ポー」
なんと新聞紙に火がつきました。
わたしの家では冬になると、家を暖めてく
れるのはまきストーブだけなので、さむい日
には、毎日マツチで火をつけなければいけま
せん。
冬の間、電気ストーブやエアコンを使わな
いので、家を暖めてくれるのは、まきストー
ブだけです。
まきストーブの薪は、いろんな木です。
秋から冬の間は山づみになった木をもち
てきて、お父さんがチェーンソーで短く切っ
て、切ったまきをオノやさかいであっていき
ます。あつた木を家の前に置いてほして、
2年も3年もかけて、かわかしていきます。
「わたしもまきを拾ったリ、運んたりする
のの手伝います。冬のさむい時に家を暖める

ために、何年か前の秋からいっぴかひつ
うで、お父さんもお母さんも休みの日にまき
のいっぴんをせつせとしていきます。
わたしは、なんかがアリとキリギリスのお
話みたいなのを思いました。アリは、春から
秋にかけて食べ物を集めて、冬になると集め
ていた食べ物で世話をすると、冬のまきス
トーブのために春から秋にせつせとまきを集
めていっぴんひつするのがよくにているなと思
いました。
でも、今はどこの家でもスイッチ一つで暖
かくなるのだからとどななので、まきを集めな
くてモキリギリスになるような人はいません。
それじゃあ、何でうずの家はこんな面どう
なことをしているのさう。
それは、お母さんが木のあるくらし、自
分の生活が好きだからです。そして、まきス
トーブのあるくらしがしたかったそうです。
かから、わたしの家はかみ井もつくえ
モイスも時計もティッシュケースもテーブルカ

ッターもお母さんのうで時計も全部が木です。
家に帰って来ると、ほんのリ木のかかりが
して、気持ちがいいです。わたしは、この木
のかかりが好きだし、しぜんも大好きです。
でも、まきストーブで木をどんどんもずす
こと、マリーのことなのからかろませんでした。
でも、お父さんから木を育てている山を大
切にするためには、木を育てていっぴんは切らな
いといけないうで、そのため切った木を
きさんと活用することか木を大切に山を
守り自ぜんを守ることになる。だから、切
った木をまきストーブで使ったりすることは、
自ぜんを守ることにもつながるんだと教え
てもらいました。
わたしは、さむい冬にゆらゆらと見えるま
きストーブの火の前で体がぽかぽかして、と
てもいい気持ちです。これか木をムカにせず
自ぜんを大切にしていると思うと、アリのよ
うにはたらいでも今の木ともにくらして
いきたいと思いました。

高学年の部

住宅金融
支援機構
理事長賞

東京都

黒部

優菜さん

家族を見守る大きな木

家族を見守る大きな木

祖父の家の庭には大きな木があります。ゴ
ールデンウィークに祖父の家に行くと、白い
花をたくさん咲かせて出迎えてくれる大きな
木です。昔の高さは私の二人分、春になると
白い花が咲き、秋になると葉が赤く染ま
ります。祖父の家に遊びに行くと、祖父は
よく庭の木を眺めています。以前、祖父に「
この木はいつからあるの」と聞くと、「優菜

贈られた友好の木でした。今では日本中で絶
えられていくそうです。あなたが少し祖父の
家の木が好きになりました。

母にこの木の由来や特徴について話すと、
母も嬉しそうに「こりと笑いなから、優菜
が生まれた時は、おじいちゃんの家に行ってね、
泣いたりすると抱っこして、庭でその木を一
緒に見ていたのよ、覚えてないかな」と言い
ました。正直全く覚えておらず困っている
母はまた「こりと笑って、おばあちゃん

の優しい笑顔。そして、その後ろにきれいな
白い花を咲かせたこの木が写っていました。
とても温かい気持ちになりました。おばあ
ちゃん、この写真を撮った一年三ヵ月後に
亡くなりました。

コロナになってから、祖父の家に遊びに行
けないので、よくライン電話で話します。
祖父は少し月が経つと、大きな声で話をし
ます。電話を切る時は必ず「元気で頑張っ
てね」と言ってくれます。すると私の頭の中に「祖父

京都府 園 理香子さん

ヒマラヤスギの木

ヒマラヤスギの木

その リカ

わたしのいえのには、ヒマラヤスギの木が生えていました。わたしはよくこの木の下で、あそびました。おかあさんも、むかしこの木の下であそんだそうです。この木は、おじいちゃんが生まれたときに、うえた木なので、ものすごくお年よりです。おじいちゃんば、もうなくなっしまいました。たけれど、この木があるのです。とおじいちゃんば、いづくにいてみるみたいでした。

でも三年前、たい風で大きなえだが、バリバリシミシミ、大きな音をたてておれてしまて、やねにのっしまいました。家にもわも泣いているみたいでした。わたしもお父さんもお母さんもおばあちゃんも、とてもかなしかったです。

みんなでそうだんして、ヒマラヤスギの木を切ることにしました。そしてそのいたで本

だなをつくることにしました。ヒマラヤスギの木を切ると、にはは、しーんとしました。でも本だなが、いえにやっつくると、みんな元きになりました。またおじいちゃんか、かえ。てきたみたいでした。

かぞくぜんいんて自分のお氣にのりの本をえらんで、本だなにならべました。わたしも一ばんすきな「モモちゃん」アカネちゃんの本をならべました。

おじいちゃんが、わたしのすきな本読んでくれているみたいでうれしです。おじいちゃんも、モモちゃんやアカネちゃんのことをすきだといいなあ。

わたしは、この本だなが大好きです。これからずっと、いっしょにいて、大切にしたいと思います。

兵庫県
坂本 陽菜さん

おとうさんのくつ下の木くず

おとうさんのくつ下の木くず

さかもといひな

わたしのくつ下の木くずです。おとうさんがい
つもするイスの下のくつ下の木くずです。木く
ずがいっぱいついていて、ザラザラします。
いもうたんについた木くずはながながとれな
いので、おとうさんはいつも、
「くつ下はげんかたでぬいで。」

とばかりおとうさんに言っています。わたしも
ザラザラぬいでおとし、すこしいたいのでおこ
ります。

おとうさんのくつ下は、木でできあがって
くつ下です。だからおとうさんのくつ下がお
わるく、くつ下にたくさん木くずがついて
います。くるまのなかや、てや、あたきには
木のにおいがついていきます。

はいしやさんにい、たこやおとうさん
はなすし、

「あのはいしやさんのドアやカーテンは、
おとうさんがつく。たんだよ。」

と、おとうさんがおしえてくれました。わた
しはそれを知りて、おとうさんにした。えして
みんながつか、ているが、おとうさんがつ
く。しているし、とてもうれしくなりな
した。おかあさんも、

「へへ、すごいね。あのはいしやさん、木の
においがしてすてきだったよ。」

と、うれしそうでした。おとうさんにもおし
えてあげたくなりました。

わたしは、おとうさんの木のにおいがとて
も好きです。いつもおかあさんとクッキーの
くつ下をおこるけど、おとうさんのくつ下の
木くずや、木のにおいがするくるまも、ザラ
ザラのくつ下も、おとうさんががんばっ
たくし、うたも、わたしが大きくた。たら
おとうさんに木でできたメダルをあげたいで
す。

おとうさん、いつもありがとう。

高学年の部

朝日小学生
新聞賞

福岡県

小田

孝太朗さん

心地よい響きとは

心地よい響きとは

小田 孝太朗

キャッチフレーズは「簡単に消毒でき、清潔に富んだ最高のまな板」と記してあった。これで決まりだ。ぼくは今年の母の日のアレセントは、白い樹脂製のまな板だと決めた。コロナの影響で、お母さんと料理する機会が増えた。その中で気付いたことがあった。それはお母さんが食器を洗う以上に、まな板を丁寧に洗っているということだ。まず、タ

ワシで木の目に沿って洗う。その後、手のひらで触って汚れを再チェック。匂いまでかぐこともある。や、と洗剤が香場し、お湯で洗い流し、最後に必ず立てて陰干しで乾かす。さらに、少しでも黒ずんだ部分が見つかる。ヤスリで削り取っている。ある日お母さんに「このまな板、もう何年も使っているよね」とたずねた。すると、こう答えた。

その時は、あまり気にとめずに聞いていた。まな板が宝物だ。たら、いくつあってもいいかなと、ず、と母の日に備えて素敵なまな板を探すことにした。家庭科の時間、白い樹脂製のまな板を使った。白いまな板の上のブロッコリーやにんじんが鮮やかに見えた。後片付けも洗剤で洗い流し、布巾でふいて終了。これだと忙しいお母さんにび、たりだと「白い樹脂製のまな板を選ぶことに決めた。」

「ありがとう。今年は珍しいブレセントね」と言われ、複雑な気持ちながら満足していた。それから、しばらく経つてもブレセントしたまな板を使ってくれず、とうとうぼくは、「使わんか。たら、誰かにや、たら」と言った。するとお母さんは、

「ごめんね。お母さんが、この木のまな板にこだわるのは理由があるからなんだよ」と、木のまな板を持って来て話し始めた。我が家は、じバのまな板を使っている。じバのまな板は、殺菌作用があり、洗うたびに

高学年の部

審査員
特別賞

千葉県 小寺 慎之助さん

大切にしたい ぼくらの校庭

大切にしたい ぼくらの校庭

「じやあオレが取るよ」という言、て思い切
り地面をける。伸ばした手がみずみずしく熟
れたビワをつかんだ。6月のある日の休み時
間、クラスの間とつまみ食い。みんなの分
をぼくが取ってあげた。ひとつずつ。ばかた
みたいたが、あとは甘くて大好評。

ぼくの学校には四季それぞれに楽しめるとい
ろんな木が生えている。梅、桜、ツツジ、び
ね、あらず、ザクロ、栗、いちじく、シイタ
など。仲間と木登りで遊ぶのはもちろんの
こと、春、学校でのおやつはツツジの蜜。夏
はビワでのどを潤し、秋は栗や銀杏を持ち帰
ってご飯と一緒に炊いてもらう。冬はたくさ
んの落ち葉を校庭の池に敷き詰めて遊んでい
たら、仲間が知らずに通って落ちてしまいい
んなで大爆笑。みんなが先生にすごく怒られ
たけど、学校生活史上トップ3に入る楽しい
思い出。

東京に住んでいる祖母は「慎之助の学校は
自然豊かだいいわね」とよく言う。そう言わ
れてみると、祖母の家の近くは木があまりな
い。道に街路樹は生えているけど、それも葉
が少なくて弱そう。けれど、ぼくの町だ。
てすこい田舎ではない。近くにコンビニやス
ーパーもあるし、大きなマンションだ。てあ
る。電車で数駅行けばデパートやショッピ
ングモールもある。てすごく便利だ。

ぼくの小学校は里山みたいだと思ふ。里山
とは人間と共存している林や森のこと。人は
森林から薪やたい肥をもらう。木は成長する
にまかせている。と、照葉樹林だけに。とし
まい、地面に日差しが届かなくな。てしま
う。そうすると下草がなくな。それと共存する
生物もいなくな。てしまふ。そこには
の手入れが入ること。で、日差しが届き、生
態系も保たれる。

ぼくらにと、て、校庭の木々は遊び場であ
り、食料をもたらししてくれる。そのおれには

くらは雑草を抜いたり、落ち葉や枝を掃除す
る。ぼくらと自然がバランよく共生してい
る場所。このような関係が日本中に広がれば
地球温暖化に歯止めがかかるかもしれない。
何よりみんなが四季を感じて心豊かに暮らせ
るのではないだろうか。

夏休みで誰もいない校庭。だけどピピの大
合唱でいっしょと変わらないうにぎやかだ。二期
が始まれば、これにぼくらのにぎやかな声が
加わる。秋、冬を過ぎると、ぼくはこの学校
を卒業だ。寂しいけれど、たくさん人の思い出
を胸に刻み、未来に送ろうと思ふ。自然豊か
な未来を作るために。



北海道 佐々木 優都さん

帯広の森「はぐくーむ」

帯広の森「はぐくーむ」
佐々木 優都
七月十五日、ぼくたち帯広市立
校四年生と五年生は、宿泊研修に
行きました。宿泊先は、近くにある
「帯広の森」はぐくーむで休け
し活動もしました。
――
「帯広の森」は帯広市内にちる
大きな森です。面もさが約四百
ワタールもあります。帯広市民が
三十年かけて植じやをして作った
森です。
「はぐくーむ」は、帯広の森の中
にある、しせつです。「はぐく
ーむ」では、森づくり体験けんや、

木工体験けんがでます。
ぼくたちは、間伐でたき火を行
いました。間伐では、かみづにな
たスギやヒノキも、てき切生
しく伐きようにするため、伐さ
る。作業のことです。しせつの方
が、間伐つようせいにについて
説明がありました。ぼくは、木を
――
大きく丈夫に育てるために、木を
切るつようがあることも知って
おどろきました。この大きな木も
たくさんの手入れをして育ててい
ることを知りました。
説明の後、間伐をしました。事
前に学校で、ノコギリを使って木
を切る練習をしていたので、思

たより、左手に切ることでま
した。でも、この日は、気温が三
十度もあったので、汗でＴシャツ
がビショビショになりました。木
を育てるのは、大変なだと思
いました。
切った木を集めて、たき火をし
ました。たき火をするまえに、シ
――
ラカバという木の皮を集めました。
シラカバの木の皮は、とてもも
やさいので、たき火をする時にべ
ん利だそうです。木の皮をめぐ
てはがす作業は、楽しかったです。
ドラム缶に、木とシラカバの木の
皮を入れまじり、木を置く時は、
空気が入りやすいようにすま

つくるて良いて言われました。い
 りいよ、マツチでバるつけます。
 ぼくは、マツチを使つたことがな
 かつたので、少しドキドキしまし
 下。でも、ゆつてみる。いがい
 にかんかんでした。
 マツチの火は、シラバの皮に
 もえうつて、あつていつ間にも
 一
 大きな火になりました。カラマツの
 木は、松やにがめくふくまれた
 め、よくもえます。うちわであお
 ぐと、さらにいさむりよくもえま
 した。こんどにすぐ、大きな火
 がまきろのお見て、ぼくは、火の
 そへは、ぜったいにしてはいけな
 いと思ひました。

大きな火は、三十分くらいでおわ
 りました。
 「はぐくむ」での、体けん活
 動を満して、森林の大切さや、火
 事の二つさについて知るこがで
 きました。

北海道 笹谷 栞さん

木と私たちとのかかわり

木と私たちとのかかわり

笹谷 栞

森は木があつまるところです。森には動物がすんでいます。人間もすんでいることがあります。生き物は空気がないと生きていきません。植物は息をしていますが、二酸化炭素をすって酸素をはいていきます。なので私たちが生きているのは植物のおかげでもあるのでお。たりつぶしたりき、たり、しないようにしましう。

木にはいろいろな実がなっていることがあります。たとえば、いちご、ふどう、バナナ、コナツツままだまがい、ばいがあります。むん島にはよく、コゴナツツの木や、バナナの木とかしかありません。なので、むん島に行く時はさいしよかり食べ物をも、てくるか、木からとり出すかでせんたんしがあります。家は木で、できています。むん島に行くと木はいっぱいあります。ですが、一人で家をつくるにはいきません。なので、木で、ねる所

をつく。たり火をつけたりして、むん島でも気もちくはないかもしれませんが、くらせるので、考えてみれば、木はすごくべんりです。なので木をすごく大事にしようと思いました。



北海道 隈本 香凜さん

季節を感じる楽しい校庭

季節を感じる楽しい校庭

隈本 香凜

私は、二年生の時に神奈川県から北海道に転校してきました。今の学校の校庭は前の学校の4倍くらいの大きさで、たくさん木にかこまれています。私は、その大きな校庭で遊ぶのが大好きです。

春は、さくらがきれいな花を咲かせます。少しおくれで桜もかわいい花を咲かせます。理科のじゅぎょうの時に、みんなで見に行くと、

ちんちんとさくらの花がはらから、ていて、

「きれいだね。」

と、う。とりながめきました。

夏は、そのさくらの木に、さくらんぼがなります。本当に食べられるさくらんぼが校庭に生えているなんて、私はびっくりしました。放課後に、こ、そり友達と取。て食べます。スーパ。で買うのよりも、みんなで取りたてを食べると、とてもおいしく感じます。

秋は、たくさん木の実がなります。どん

がり、トチの実、くり、ぎんなんなどです。休み時間に取りに行。て、大きさをくらべて競。そうするのを楽しみます。私は、おたん生。日。か。9月なので、お友達と校庭で大きなクリをたくさん見つけてプレゼントしてく。たのび。くりしました。そして、紅葉も赤とオレンジ色にな。て、とても校庭がカラフルにな。て、きれいです。

冬は、葉。は。かち。て。さ。しくなりますが、みんなとい。し。に雪でかまくらを作。たり、

雪。る。ま。を。作。たりします。雪。る。ま。の。う。で、

や、か。ま。く。ら。の。か。さ。り。つ。け。に、木。の。え。だ。を。使。たりして遊。び。ます。今年のお正月には用。む。

買。のお。じ。さん。が。木。の。せ。ん。て。い。を。し。て、あ。き。

た。え。だ。を。も。ら。て、「ま。ゆ。玉。か。さ。り」を。作。り。ま。

した。木。の。え。だ。に、も。ち。か。の。皮。お。たい。な。れ。い。玉。を。く。つ。け。て。作。り。ま。す。紅。白、ビ。ン。リ、緑、

黄。色、青。の。た。く。さ。ん。の。ま。ゆ。玉。か。つ。いた。木。の。え。

だ。は、は。な。や。か。で、い。い。年。を。む。か。え。ら。れ。そ。う。

た。な、と。思。い。ま。した。

校庭にたくさん木が生えているおかげで、遊具がなくても楽しく中休みをすごすことができます。私は、季節によ、てい。る。ん。な。遊。び。か。で。き。る。学。校。の。校。庭。が。大。好。き。で。す。私。が。大。人。に。な。も、木。が。ず。と。元。氣。で。の。こ。て。い。て。く。れ。る。と。い。い。な、と。思。い。ま。す。

東北ブロック
ケヤキ賞

わたしのいえ

[illegible][illegible]

ア	ン	ス	モ	ム	ケ	ヲ	ル	キ	デ	フ	イ	ク
マ	シ	タ	ヲ	ニ	ロ	チ	カ	イ	ハ	イ		
フ	カ	ア	レ	テ	イ	マ	ノ					
オ	ハ	ラ	ア	ン	ト	オ	カ	ア	ホ	ン	ハ	
リ	ヲ	カ	ン	イ	サ	ホ						
と	い	い	ま	す	あ	た	し	た	ハ	ん	の	
セ	と	か	あ	カ	リ	マ	セ	し	や	う	す	こ
し	マ	ス	ク	な	た	ガ	キ	と	あ	か	マ	ア
カ	リ	と	マ	テ	セ	い	たい	サ	キ	マ	す	この
カ	の	ヨ	レ	フ	エ	ン	ス	の	き	も	た	い
コ	デ	ナ	キ	カ	ナ	カ	た	い	この	い		
エ	ハ	デ	キ	マ	セ	ハ	ア	し	チ	ハ	と	マ
も	た	い	い	デ	サ							
こ	り	い	え	な	た	て	て	く	え	た	い	く

高学年の部

東北ブロック
ケヤキ賞

山形県 谷中 ころろさん

わたしの木の家

わたしの木の家

谷中ころろ

わたしの家は木の家です。会津の山で育った木材を使って作った家です。

八年前に家をたてると決めたとき、お父さんは地元の木を使って作る大工さんにおねがいしたいと思い、この家をせ、計してもらったそうです。わたしはまだ二才でした。小さくて全部はおぼえていませんが、時々家がよこまでた、たのかを見に行きました。行くと

びに木がたくさん組み合わされて、げんげお風呂、リビングと、部屋がどんどんできていきました。とてもうれしかったです。

とまりに行、た先から帰、て来てげんげアを聞けると、ほのかに木の香りがして、落ち着きます。いつもは当たり前にな、ていて気がつきませんが、わたしの家の木の香りが大好きです。

ダイニングテーブルも大工さんが木で作ってくれました。世界に一つだけのテーブルで

す、ご飯を食べるだけでなく、宿題をしたり絵をかいたり、何でもこのテーブルでやっています。家族みんなのお気に入りです。弟が赤ちゃんのときにかじ、てしま、た歯形もついています。これからも大切に使用したいです。

わたしの家のゆかば、あつさ五センチくらい、の会津の木材を張り合わせてあります。はたしで歩くと、夏はひんやりとするのに、冬はあたたかい感じがします。

この前、お母さんとそうじをしたときに、

気がついたことがあります。夏にはび、たりとく、ついでいるように見えた木材同士が、冬にはすき間が空いてるように見えるのです。このすき間はなぜできたんだろうとふしぎに思、ていたら、お母さんが、
「木は、気温やしつ度に合わせて、ふくらんだり、ちぢんだりするんだよ。」
と教えてくれました。さらに、

「会津は夏は暑くて、冬は寒いから、それに合わせて木が息をしているんだよ。」

と聞いて、わたしはとてもおどろきました。だから、夏にはし、気をふくんで木がちむのに対して、冬にはかんそうして木がちむのです。間ができたんだと分かりました。

会津の山で育、た木は、わたしの家の柱やゆかやかべにな、た後も、し、かりと息をして生き、ているんだと思いました。そう考えると、木は切りたおされた後もちゃんと生きつづけて、どの季節でもわたしが住みやすい家にしてくれているんだなと思いました。

木のことを知り、わたしの家の見方が変わりました。木は切りたおされても、木材として移を変えて、わたしの家で生きつづけているんだなと気づきました。まだまだ知らない木のことも、とも、と知りたいなと思いました。

大工さんか心をこめて作、てくれた世界に一つだけの家。大好きなわたしの木の家を、これから家族みんなで大仕事にしていきたいです。



東京都 木村 涼花さん

「きもちをつなぐ木」

「きもちをつなぐ木」

木村 涼花

石川県辰口町。私が小さいころから毎年おとずれている場所。そこには、私のいおばあちゃんといおじいちゃんが住んでいた家がある。のこっています。お庭には、一本のブルーベリーの木があります。夏に行くたび、たくさんの実がなっていて、とてもおいしいブルーベリーを食べるのが私の楽しみになっています。

「早く辰口に行きたいな」

この数年間、コロナウィルスのえいきょうで辰口へ行っていません。私は、辰口のお家にまた行きたいと、何度もお父さんに話しました。ブルーベリーの木が元気がぶじみ、気になっています。

ふだん、ブルーベリーの木をお世話する人はだれもいません。それなのに、毎年たくさんの実をつけるブルーベリーの木は、すごい

と思います。私がいおばあちゃんに会ったのは、ひたひた、二才の三年間だ。たけど、その時ど、たブルーベリーを、いおばあちゃんに、見せたことを今でもおぼえています。

いおばあちゃん、そのごでく、てしまいました。けれど、お庭の木は、げんきに生え続けています。ブルーベリーの木が、今はもうええなくな。てしま、た、いおばあちゃん、私をつないでくれています。

今年、私はブルーベリーの木を自分で育て

ています。この間で、た実をしゃうかくして、食べてみました。あま、はく、とてもおいしかったです。

木は、人間とちが、て、何百年も、何千年も生きることができます。私たちのしらない世界をたくえんし、ています。怒、たり、泣いたりすることもなく、たく大きく成長しています。

私がもし、木とお話することかできたら、木がこれまでみてきた、景色をおしえてもら

いたいです。木は、私といおばあちゃん、きもちをつないでくれているように、たくさん、人のきもちをつないでいるとおもいます。木がこれから、と元気でいられるように、みんなで木を大切にしていきたいです。



群馬県 天田 有紀さん

日本の木造建築

日本の木造建築

天田 有紀

私の祖父母の家は、今時めずらしい、はりがあちこちにみえる。日本家屋である。玄関を入ると屋根まで、太さ三〇センチメートルはあり、やがて黒褐色のはり、縦に横に張りめぐらされていて、私たちをいつもと変わらぬ出むかえてくれる。おたやかです。しりとした、そのたすまいに安心感を得るし、昔の人の技術にも圧倒される。どのように組み立てたのだろう、と思いをよせるとわくわくしてくる。

祖父母の家は、築七〇年を超えている。天井がなく、はりが見えているので、かっこいい。私の高祖父と曾祖父が建てた家で、祖母も母もそこで育った。立て直しの機会が何度あったようだが、その度にリフォームすることにしたようだ。大工さんには、「こわして新しい家を建てたら」といわれることが常となっていた。しかし、

この家を建てた先祖達の気持ちも考えた。何より祖母はこの家が大好きで、建て直すという結論にはならなかったらしい。祖母は、「こんなにはりのみえる家はなかなか無いでしょ。これさないで良かったよ」といって、この家を、はりのうちの一本は黒い黒光りしている。そのはり、この家のさうに前の家で使っていた国産の杉の柱で、いぶされてそうだったらしい。少し湾曲していてもかっこいい。

木の持つ力は無限で偉大だと感じる。広く日本中を見渡せば、歴史的建造物はほぼ木造である。奈良の法隆寺は建立約一四〇〇年、想像を絶する。祖父母の家のそれには到底及ばない。なんて丈夫でたくましいのだろう。また、そこに暮らす人々を雨風から守り、安らぎを与え、暮らしを守る。私の母も、家を建てたいと思っているらしい。母は、「おばあちゃんの家をそのままらいたいくらいだよ。木は年月を経ると見た目も黒く

つやが出て偉そうに見える。だからか、こいい。そういう木を使った家はなかなか無いのよ。」

と言っていた。

昔から日本人は木に囲まれて生活してきた。日本の国土の約七〇パーセントは森林である。しかし、近頃はウッドショックがあり、輸入の材木が日本に届かないという問題が起こっている。日本の材木が不足しているのである。木の素晴らしさを見抜き、共に生きてきた日本人には危機的状況ではないか。私は祖父母の家に行くたびに木のぬくもりを感じる。丁寧にお手入れをして、家族の一員のようにならぬに扱い接すること。何百年とこれから木と共に生きていくと期待する。木は限りある資源である。素晴らしい貴重な資源を無駄に使うことなく、丁寧に大切に人に接するように扱う人が増える事を願う。私も、かっこいい木と共に長く生活していきたい。

福井県
清水
杏珠さん

わたしとおばあちゃんのかきの木

[illegible][illegible]

高学年の部

北信越ブロック
シラカバ賞

長野県

塚田

莉奈さん

皆で作った木の遊び場

ツリーハウス！

皆で作った木の遊び場 ツリーハウス！
塚田莉奈
トントントンッ ミミ雪降る中金槌の音が鳴
りびぎます。
「楽しいね、でも、もう少し強く打つ方が
いいよ。」
聞こえたのは、皆で相談しながら作業して
いる声です。
私は、五年生の時にすぎな体験をしまし
た。それは、ワラスの総合的な学習でツリー
ハウス作りをした事です。年度始めは、この
時間で何を考える事から始まりまし
た。色々な意見が出て、そこから多数決で
決めました。私はどれも楽しそうで良いなと
思いながら話し合いに参加しました。色々な
案の中、ツリーハウス作りに決まりました。
次は全体の目標決めです。「色々な人が遊べ
る」「ケがなく楽しめる」などの意見があり
ました。その中でも大切にしたのは、車イス
で生活している友達です。その子は障害

があり、車イスで生活しています。普通のツ
リーハウスだと、その子と一緒に遊べない事
に話し合いの中で気付き、皆で一緒に登れる
物を作る事も目標の一つになりました。まと
めて、五全校と地域の人がケがなく楽しめる
ツリーハウスを作ろう。という目標になりま
した。ここから私達のツリーハウスプロジェ
クトが始まりました。
まず何から始めれば良いか迷いながら、自
分達でイメージ図を描いてみました。でも、
「自分達だけでは、完成出来ないのでは？」
と先生に言われ、私達は悩みました。手伝
てくれる人や大工さんを探さないとミミ私達
は信州大学工学部の先生や学生さんにお手伝
いをお願いしました。大工さんは母の友人に
お願いし、協力してもらう事になりました。
私達は感謝の気持ちを持ちながら、工学部の
皆さんや大工さんとツリーハウスの土台・大
きさ・材料の調達方法を考えました。まず、
始めにワラスを三つのグループに分け、大学

生と一緒に、各班の目指す完成模型を作りま
した。初めて見る材料や工程に、皆ワクワク
して作りました。その後、各班プレゼンテー
ションをし、投票で一つの案に決まりました。
車イスの友達も登れるよう、スロープを作り
そこをツリーハウスの一階にしました。二階
は安全面に配り直し、一・五mの高さに設定
しました。最初に考えていた高さではありま
せんが、皆で納得しました。
いよいよ十二月から作り始めました。材料
は大工さんや材木店に提供してもらいました。
測量をして十四個の工台の高さを誤差の1mm
に合わせるのが大変でした。沢山の種類があ
る大工道具は初めて見る物が多く、とても面
白かったです。作業を行う時は、皆が参加出
来るように、声をかけ合いました。私は大変
な作業も皆で協力すれば楽しい事が分がりま
した。また、協力してくださった方への感謝
の気持ちも、完成式で伝える事が出来る良か
うです。今は全校が遊ぶツリーハウスです。



静岡県 近藤 穂乃花さん

木の名前しりとり

木の名前しりとり

近藤 穂乃花

「キノキ」「ギリ」「リンゴ」「ゴ...ゴ?」
「ゴ」からはじまる木なんて、ないよ!」この前
おでかけをした時、車の中でひまだったの
おはあちゃん二人でしりとりをしました。
テーマを決めてやる「名前しりとり」。今回の
テーマは「木」です。でも、おはあちゃんも
私も「ゴ」から始まる木を知らなかったの
すぐに終わってしまいました。
ある日、図書館へ行った時、植物図かんが
目に入ったので、「木のしりとり」を調べて
みようと思いました。
キノキ・ギリ・リョウブ・ブナ・ナツツバキ・
キブシ・ジャリンバイ・イチヨウウ・ウメ・メ
タセコイア・アカマツ・ツリバナ・ナナカマ
ド
ちょっと調べただけでまだまだつづきます、
聞いたことない名前ばかり、どんな木かな?

セツ明を読んだみると、公園やわ、学校や
山などにある木でした。ふだん目にしている
「木」の名前を知っていたら「しりとり」は
もっとつづいていたんだな。と、おどろきま
した。
そして、しりとりで大切なポイントである
「ん」で終わる木の名前も気になります。私
の予想では「ん」で終わる木は一つもないと
思います。こちらで図かんで見てもみたら、
ウゴン・カンザン・ビャクシン・モクレン・
レンタン・ナンテン
なんと六つもありました。ビックリです。
知っているようで知らない木の名前。今度
公園へ行ったらネームプレートにも注目して
みたいですね。図かんを持って行くのも面白い
かもしれません。
おはあちゃんにも今回調べた木の名前を教
えてあげて「木のしりとり」をリベンジして
みたいですね。ただ、むずかしい名前ばかりな
のでおはあちゃんにいられるか不安です。そうした

ら、また図かんを見たり、インターネットで
調べたりして少しでも長くつづけてみたいで
す。

高学年の部

甲・静岡ブロック
モクセイ賞

静岡県 原 緋奈乃さん

オリーブの木にこめた平和への願い

オリーブの木にこめた平和への願い

原 緋奈乃

八月十五日は、終戦記念日であることを歴史で学びました。テレビでは、終戦記念日の式典が放送されていました。戦争によって多くの人々が命を落とし、町並も木々も焼きつくされてしまいました。その出来事は、たいも忘れられない悲惨なことです。

私の家の庭には、一本のオリーブの木があります。その木は、私が四才の時に植えました。毎年、花が咲いて実をつけることも楽しみにしています。時には、元気がなく枯れてしまうのではないかと、心配になります。水をし、かりしあけて大切に育てています。今では、美しい緑の葉をつけています。

ある日私は、お母さんに「どうしてオリーブの木を植えたの？」とたずねてみました。母の答えは、「オリーブの木の花言葉は、平和

和」と「知恵」なのよ。平和な時代の中で、たくさん人の知識を身につけてくれたらいいな。そんな願いをこめて植えたのよ。」

私の学校では、聖書を学ぶ授業があります。私は、旧約聖書の「ノア方舟」を思い出しました。そこには、ハトを放ち舞い戻ったハトはオリーブの若葉をくわえていた場面がありました。これに由来するものだと分かりました。ギリシャ神話の中に、アテナとポセイドの戦いは、全能の神ゼウスが人々にとって、役立つ贈りものとしたものに勝利をあたえました。オリーブの木を植えた、アテナが勝利しました。それは、さまざまなことに使えるからです。例えば、実は人の食料となり薬にもなるということです。また、しっかりと育てれば、木々は増え枯れることはないことです。

私は、オリーブの木や他の木々がむれたい松達にとって良いものか、に気付きしました。木影を作、てくれる。風をよけてくれる。家屋

の材料になってくれる。二酸化炭素を吸収して酸素にしてくれる。などのたくさん良いところがあります。私達の生活には、木はとても大切な存在です。だから戦争をしてはいけません。年月をかけて生きたものを一瞬間にして失なわれるからです。失われた生命は、二度と再生できません。そして、木は長い年月もかかれば育つことはできません。その大切な木々が、これから未来にむかって元気に直って平和な世界をのぞいていきます。我が家のオリーブと共に。

わたしの家

玉木
心結

わたしはログハウスに住んでいます。ログハウスなので、たくさんのお木がつかわれています。友だちは、わたしの家のことを、

「カフエみたいで、ステキだね。」

と言ってくれたりします。ログハウスなので
 まるで毎日キャンプしているみたいで楽しい
 です。でも、本当は友だちの家みたいで白い
 かべの家がいいなあ、と思うこともあります。

だから、

「何で木の家にしたの？」

と、お母さんに聞いてみました。すると、お母さんは木の家のいいところを三つ教えてくれました。

木の家のいいところの一つ目は、木のかべ
がへやのしつどのちやうせいしてくれるとい
うことです。木のかべは、回りのしつどが高
くなると空気中の水分をぎゅうしゅうして、
ぎよくにしつどがひくくなれば水分をはき出

すといつとく長があるそうです。このはたらきによつて、エアコンをたくさん使わなくてもへやのしつどをかいてきにしてくれるそうです。また、へやのしつどが高くなりすぎることはないので、けつろしにくくなりカビやダニの発生をいせくすることもできるそうです。

二つ目は、コンクリートのかべの家にくらべて、木の家は十二ばいのたんおつせいがあるといふことです。ログハウスは、木をたくさんつかつているので夏はすずしく冬はあ

たたかくすこすつとがでる家だと言えるぞうです。

三つ目は、木のおいには心や体へのリラ
クスンががあるということです。わたし
の家は、たててから七年目になるけど、へや
の中はまるで森の中にいるような木のいいに
おいがします。木のおいをかくと、わたし
はとも心があちつきます。

お母さんに木の家のいいところをたくさん

知らなかつたステキなところがいっぱいあるんだなあと感じました。わたしの家のへやのかべは、友だちの家みたいにかわいいいいかわべじやないけど、かわりに木目がたたくんあります。木目には千分の一ゆらぎという、とくべつなりズムがあるそうです。たとえば小川のせせらぐ音やほたるの光りなどにもみられる千分の一ゆらぎは、それを感じることができるとで心がしんと落ちつきリラクセスできるのだとお母さんが教えてくれました。

この話を聞いて、わたしは自分の家が落ちつく理由が何となく分かりました。友だちの家もステキだけれど、いろんなことを知って、木をいっぱい使っている自分の家が前より好きになりました。これから、家のかべがいたんだrikくさたりしないように、お父さんがペンキをぬたりする時はお手伝いをしたり、かべやゆかをきれいにいいたりして、大切に住んでいきたいと思ひます。

高学年の部

中部ブロック
ハナノキ賞

愛知県

加藤

淳さん

お父さんと木の家具

お父さんと木の家具

加藤 淳

ぼくのお父さんは、木の家具を作っていました。昔は東京の家具工場で作っていました。ぼくが2才の時に、満都で自分の店、「エコーズファニチャー」をはじめたそうです。木のことにについて考えた時、ぼくはお父さんに木の家具について教えてもらいました。

お父さんは、昔から物を作るのが好きで、木の家具を作った時のやさしさが感じられ

るのが大好きで、木の家具にしたそうです。材料の木は、チェリー、ウォールナット、メイプル、ナラ、スギ、くらのなどいろいろ使います。それぞれの木で、色や木目、におい、色の変化の仕方もちがうそうです。例えば、チェリーは使ったとすると色がこくなるが、ウォールナットは黒い木が、やさしい茶色に変わり、ナラは白い木が、あめ色になる。メイプルの木に焼印をおくと、メイプルシワップの香りがするそうです。お父さんの好きな木は、ナラ

とチェリー。なぜかというと、どちらの木も使うほかに、味や深い色になるからだそうです。

よく作る家具は、いすとテーブルで、お父さんが、形のはいすだそうです。どんな人があつても、これこれないよう作り、すわり心地や、軽さ、形の美しさなどを考えないといけません。からです。お父さんが一番力をいれる所は、なめらかな手ごわりの仕上げと、何十年使ってもこわれなかりしつかりとしたつくりです。丈夫にするために、ナットというやり方で組み上げます。クギやねじだけで作ると、使ったとすると、木がボロボロになつてしまつて、ナットで木を加工して組み上げると、丈夫で、これでも直すことができます。手ごわ

リが、いいのは、テーブルの表面をカンナと言ふ物でけず、仕上げているから、何年たってもつるつるで、気持ちよく使えます。自然とリヤウをぬっているの、表面をけずり直すことができません。

お父さんは、どの家具を作る時も、注文してくれるお客様が、喜んでくれる笑顔を見たいから作るそうです。だから、納品してお客様に喜んでもらう時は、何年使った後にまた注文してもらった時は、気に入っていただけたんだなといううれしくなるそうです。

ぼくは、お父さんが手道具を使つてつるに仕上げている、本当にすごいと思います。お父さんは、いつも昼も夜も家具のことを考えています。そんなお父さんの家具が、

みんなに長く使ってもらって、それぞれのお

低学年の部

近畿ブロック
ウバメガシ賞

和歌山県 石井 香流さん

私と木のかかわり

私と木のかかわり

智辯学園和歌山小学校二年 石井 香流

私の家の近所に公園があります。そこにはクヌギや山茶花、コナラや椿の木が生えています。季節によって咲く花は違ったり、秋にはどんぐりを拾うこともできます。家族で遊んだことや、幼稚園の遠足で行ったこと、その時の楽しかった出来事と一緒に葉っぱの色や花の匂いを出します。お母さんが、

「あなたが三才くらいの頃、一本ずつ木に抱

きついてたね。」

と話してくれました。私はすっかり忘れてしまっていたけれど、お母さんの中には私と木の思い出が残っているんだなあと思いました。

夏休みのある日の夜、お父さんと一緒に車で少し遠くの山へ行きました。夜の森で木や生き物を見るためです。向かっている途中はドキドキしていました。車からおりたら、みんなが懐中電灯を照らしていたので思っていたよりも明るかったし、案内してくれる先

生の説明を聞いているうちに、だんだん安んじてきました。

山には、とても大きいヤマナメクジやナナフシなどがいました。ニイニイゼミは夜更かしだそうで、夜なのに鳴いていました。私には生き物たちが生き生きとしているように見え、また、生き物たちは木の樹液を吸ったり住みかにして、木と助け合っているように思えました。

帰りの車の中、私はなぜか行く前より元氣

になっていました。お父さんは、

「生き物や木にたくさん元氣を分けてもらったね。」

と言いました。

家で布団に入ってから、森で見たネムノキを思い出していました。ネムノキは昼間には葉が開いていますが、夜になると閉じます。私はなんてかっこいい木なのだろうと思ひ、ネムノキの夜の姿を思い出しながら眠りました。この前、家族で旅行に行って帰ってきた時

ふわっと木のいい匂いがしました。おうちってこんなにいい匂いがするの、いつもは気付かなかったんだな。よく考えてみると私の身の回りには木でできているものがたくさんあることに気付きました。小さい頃遊んだ積み木は、今では弟が遊んでいます。私が大好きな絵を描いたり毎日宿題をする時、そしてこの作文を書くのも木でできた鉛筆を使っています。

木をたくさん使ってしまうと、未来には木

が減ってしまうのかな。大切な木がなくな

っていくことはさみしいけれど、生活が良くなるのはいいい事だからおもしろいと思います。

私が大人になった時、近所の公園やあの夜に行った森は残っているのかな。私にできることは、いつもお母さんがとうの気持ちで道具を使うこと、ゴミを増やさないこと、生き物の命を大切にするなどだと思います。これから先も木と私たちの未来をつくらせていただきます。

近畿ブロック クスノキ賞

「音のゆくえ」

宮崎縣志

僕はいま、ギターを習っています。フランス
ソフギターといつて、それは木で出来ていま
す。習うことになつたま。かけは、おじいち
やんでした。僕はいろいろな事情があり、三
年生になるまで、おじいちゃんといふことが
できませんでした。おじいちゃんといふことが
つたとき、おじいちゃんは涙を流して、僕を
抱きしめてくれました。そのときのおじいち
やんの表情は、今でもはっきりと思い出さま
す。

おい、いちゃんにはたくさんのお楽しみがあり、
 ギターはそのひとつでした。一度やってみな
 いかとすすめてくれたときは、僕にでこがや
 うが不安もありましたから、いざ始めてみると
 難しかったり遅くあったりで、発表会にも参
 加しませんでした。

僕はギターの音が好きです。木のぬくも
りにつつまれた、やさしい音色。それはどこ
から来るといへ行くのだろうと、てしなから
いつも考えます。

もう、木ではなく、他のもので作
られていたとしたら。こんなにもやわらかな
音を出せながら、ただうーと思えます。

おにいちゃん、漢字をしていたとき、氣になつた。これまでの時間、取りもどしてやるよ。お氣がしよした。二人で作り出した音

色は、気えなつた時聞からやつて来て、僕たちの間を結んでく來たようでした。

漢書の「おれ」と「魚を食ふ」
布でぎターをします。おいちせんは、
「おに」が「ける」ように「る」くんたよ。

そ
う
教
え
て
く
れ
ま
し
た。

木
に
話
し
か
け
る

何だか難しいなと思ひました。木はん間で
はよいし、ましてや坐まつてゐるわけではな
いと思つたからです。

この話をよみ
たす
と
木は生
ま
て
る
よ
し。

と、教えたくなりました。

料タ―を意の良いステレオの元はに書く
 その流れる音を感じて、オが音つようです。
 それを知、乙、人間といっしょにだんと思ひま
 した。

人聞え、いひ請、ためになる語を身にする
ことによて、どへん成長します。がい
ちせん、おはあちゃん、おやさん、わのさん

が、いさん、いしこのお兄ちゃん。みんな、僕
のこを大仰に思ってくれ、大事なことを教

でもありまゝでも、牛当に候のことを思つて語りかへてくれるのがわかります。

月
に
二
回
土
曜
日
の
午
後
は
お
又
一
回

です。失生にもほめらるゝことが増えまし

た。僕がこめからをぱいちゃんと一緒に、
木のぬくもりを感じながら、やさしい音のゆ
くえを探していたと思います。



徳島県 多田 紗耶加さん

ふしぎなたけ

ふしぎなたけ

ただ さやが

わたしのおばあちゃんぐすんでいるがもじ
まじまじうにはたげたくさんはえています。
山のちがくやふしや川のちがくにも、こりし
たぐさんはえています。さいしはわがな
かつたけどながべうちがうふしといつこの
さんがついているたけという木をあばあ
んがおしえてくれた。

おじいちゃん山へ行ってたけをきって大

さやがでこにまにしています。このこは
ふしぎなこたけです。ほんなつた
のこりのやせりやたべのこしたおがなど
このこにまぜるとはなやさいなつくと
さのひりうになるそうです。おこめをつ
るとさこのこをたんぽにたくさんま
おいしいおこめがとれるそうです。い
ちたけのこたけでたおこめをたべたいとお
います。

また、ちくさいしうたけからとれるお

かがあってこのみずをうごかしよいお
だれうです。このみずがこぼれけんも
ようです。このせうけんはあわがた
とまうとまうとまうとまうとまうと
らだにいいのだえうです。

わつちがみにはいつてうごかしお
のいふでちくし」というたけが
くりおした。一めんうんみおにつけてく
たけたけたたりとせんいあひくして、
おずにとかしとせんいあひくして、

ぐですく、さやがをうごかし、さ
むかはがしうごかし、さやがをう
んがりがするうちにさやがをう
たのみずのむかのたけをうごかし、
にでさやがをうごかし、さやがを
かみにおたりします。おずにとけ
をすく、さやがをうごかし、さ
す、さやがをうごかし、さやがを
まうた、さやがをうごかし、さ
ットでうごかし、さやがをう

おあでちああげながら、ミールをう
にドキドキしながらはまりました。い
すいたおにえのぐでえちがいた
てたのしおしました。まじしうで
すいさののかがおはうしとちあ
じでうごかし、さやがをう

たけといふとあはれはかぐやめ
たりちあをいだし、さやがをう
れたたけでりちあをうごかし、
つくりました。たけはりちあをう
のせいのつにやうにたのたしり
ち。さやがをうごかし、さやがを



高学年の部

四国ブロック
マツ賞

愛媛県

近松

叶さん

時代をこえて

時代をこえて

近松 叶

私は、夏休みに愛ひめのれきしについて書かれた本で、大山すみ神社にあるじゅれい三千年のくすの木のことを知りました。三千年前と言えば、じょう文時代で、毛皮を着て、石の弓や矢でかりをして たてあな住まにぼんびいたころ。そんな昔から今まで生き続けているなんて想ぞうあつきません。どうしても会いに行きたくなりました。お母さんにその事を伝えたと、話にのってかれて、コロナかではあるけど、大三島まで舟なで行って大山すみ神社で、コロナがなくなりまう様にとおいのりして、天然記念物にもなっているすびい木を見てみようという事になりました。せみがうるさいぐらいに鳴いているカンカンでりの日曜日、おじいちゃん、おばあちゃん、いつもは仕事のお父さん、お母さん、妹二人の七人で、車に乗って行きました。たいてい車でおでかけすると車よいするので少し

心配だったけど、みんなでワイワイ話をしたり歌を歌ったりしていたら、あっという間でよわずにとり着く事かどき生じた。車からおりて念がくのくすの木と会える。ドキドキしながら、足早に木の所まで行きました。でも思っていた木と全くちがってました。三千年なので、ジャックと豆の木みたい。天までとどきそうな位せが高くて、みきむむこうかわか見えないう位ぶつ、いいのではないかと思っていたのに、色んな所からくち

てい、はいあながあいていました。大まさは想ぞうより小さかったけど、緑の葉っぱはおいしげり、たしかに生きていました。木にあるぎは、生きてきたく人章で、どうどうと生き様を見せつけてくれている様に見えるました。木は、会いにいった私に、よく来たね。と、語りかけてくれているように感じました。そこから少しはなれた所に、いききのつもと人という根元から二本のみきが出ていく

すの木もありました。人が通れるほどの大きな空どうが開いていてその中には石だんがありました。そこをくぐって参拝するのですが、ひっそりとしていて人気がなく、くぐってしまふとむかしの時代につれていかれろうで、足かすくんでしまっていました。まずお父さんにくぐってもらいました。小さなあなで通りくろうだったけど大じょうふな事をたしかめて次は私です。一足ふみいれるとちよとかがびくさい古い木のおいかしました。足

元の石の階段もかがたがでつまづきそうでした。でもそんな木や石のすききに遠いむかしのを空気を感しました。今まお何人の人が、どんな思いでこの門をくぐって来たのだろうと、私わくぐりぬけたのは今日初めてではないうきさえしてました。帰りは木について色々話しました。木は私をば人想の世界にしよう待してくれました。木は私に、マタイムマシンとなりました。

低学年の部

中国・九州・沖縄

ブロック

アカマツ賞

岡山県 矢野 みやびさん

木のあるしごととおとうさん

木のあるしごととおとうさん
わたしのおとうさんは、こうむ
店のしごとをしています。おとう
さんは、おきゃくさんとうちあわ
せをしたり、いえのすめんを書い
たり、げんばでおうちをつくった
り、木にかんするしごとをいうい
ろしています。
おとうさんがつくるおうちは、
木のおうちで、せいのがいいの
で、夏はすずしくて、ふゆはあた
たかくすごせます。でん気だいま
あんまりかからないでかんきう
にやさしいです。
おとうさんはまい日いそがしく

て、いえにいる時間もすくなく、
あまりあそびにいきません。でも
おうちをたてることでしあわせに
なっている人がいると思うとうれ
しいです。
今はコロナがはやっていて、い
えですごす人がふえています。か
いてきにすごせるおうちをいっば
いつくってみんなをしあわせにし
てほしいです。



私の宝物

福岡県 竹田

舞子さん

私の宝物

「五番コート、ゆうき卓研、竹田。試合で
す。」

呼ばれた、呼ばれた、私の番だ。ラケット、
タオル、水筒を持っ、ドキドキしながらコ
トに向かった。

東京スロモオリンピックでは日本初の金
メダルを手にした卓球。私はテレビの前で
のプレーの美しさと激しさに魅入られていた。

いつかあんなふうになれたい。外国の選手と試合ができ
たら格好いいだろうなと思いついた。

私は小学三年生で卓球を始めた。それから
ほぼ毎日ラケットをにぎっている。でも実は
ラケットの事をよく知らない。コーチや母が
いいよと言うから使っているけれど、どうし
て、合う、合わないがあるのだろうか。調べ
てみることにした。

今私が使っているラケットはワリッパ
ードWRBという、七枚合板のものだ。ア

リッパへにぎる部分の木の中が空洞になっ
ていて軽い。本やインターネットで調べても
くわしくは分からない。そこで、思い切っ
てラケットの会社「ステイガ・スポーツ・ジ
パン」にメールで質問してみた。子供の質問
なんか答えてくれないと思っただけ、すぐ返
事かきうけられた。

まず分かったのは、いろいろの木種からで
きている事だ。七枚合板の甲板（真ん中の板
は「バチ」中から二枚目は「企業秘密」、中から
三枚目がまた「バチ」、一番外の板はリンバを
使用しているそうだった。バチとはアザリ科
の針葉樹で軽くやわらかい。リンバはインワ
ン科で加工にすぐれている。ともにアフリカ
に多く生えている。じっくりラケットを見て
みると、本当にうまい木の層があって、複雑
だと思っただけ。

そして私のラケットは、スウェーデンのエ
スキュルスチューという都市にある工場
で作られていることも分かった。そういえば、

私の練習が出来るようになった。だから、今は首
以上に筋肉トレーニングをがんばっている。
動画で勉強している。

そして福岡県予選会当日がやって来た。
「五番コート、ゆうき卓研、竹田。試合です。
順調に勝ち上がった。あとひとつ勝てば県大会
に出場だ。体育館の二階から階段を駆け下り
てコートに向かった。このラケットをにぎ
りしめて。」

コートを私と同じラケット、ワリッパ
ードを持っているけれど手の響きがうやうや
しい。なんでだろう。不思議に思った。

「木は自然のものだから同じ工場でも重さや
かたさは一本一本違うんだよ。」
とコーチに教わった。ラケットの秘密が分か
った。楽しくなってきた。早く練習がしたいと
思ってしまった。

審査員の講評

イラストレーター

はせがわゆうじ氏



たかみのあるモチーフに様々な人間模様を感じさせていただきました。

おじいちゃんの分身のような本棚に大好きな本を入れて、おじいちゃんに読んでもらってるみたいと思う「ヒマラヤスギの木」。おじいちゃん読んでくれているかなあ。

「金」ではなく「木」のメダルをがんばったおとうさんにあげたい「おとうさんのくつ下の木くず」。このおとうさんにはきつと木のメダルが一番ですね。

この木の下にいとみんなが自然と笑顔になり怒る人はいないという「二本のうめの木」。読んでもこちらもなんだか幸せな気持ちになりました。

どんぐり銀行つてほんとにあるんですね。とっても素敵なプロジェクトを教えてください「どんぐりの木」。

ほのぼのとした文体でおなかもおにしてくれる「もののき」。

おかあさんがなぜ木のまな板を大切にするのかがよくわかる「心地よい響きとは」。道具を大切に使い続けるおかあさんの気持ちがよく伝わります。

辛いことを一緒に乗り越えて来たからこそ特別な想いがある木の椅子の「木がつなぐ素敵な未来」。ぜひ未来のお子さんにも座らせてあげてください。

空に向かって伸びている木々と同じくらい根が、大地を抱きしめている……この表現に心が揺さぶられた「見えない力」。この作者さんは将来、大作家さんになるかもしれないと予感させられました。

校庭の中の日々がとっても充実して楽しそうな「大切にしたいぼくらの校庭」。自然とバランスよく共生出来るつてすばらしいです。

「東京オリンピックピックと日本の木」は競技場などに使われている木の性質や特徴をよく調べて研究されています。海外から見た日本の良さのひとつは木造なのではないでしょうか。

ここには書ききれませんが、他の作品もみんなそれぞれ優秀で素敵でした。今はこんな世の中ですが、子供たちの作文を読んでいるとなんだか励まされます。社会にまみれて忘れかけている何かを思い出させてくれるからかな……と思います。

南雲国語教室主宰

南雲 ゆりか氏



審査会では、内容、表現に新鮮味や独自性のある作品が高評価を得ました。

「ヒマラヤスギの木」は、気持ちの表現に個性がありました。おじいちゃんの生まれたときに植えたヒマラヤスギが倒れてしまった悲しみを「家にもわも泣いているみたい」と書きます。でも、それが本棚に生まれかわると「おじいちゃんがかえってきたみたい」で、「おじいちゃんがわたしの好きな本を読んできているみたいでうれしい」と表現しています。こんなふうに、天国のおじいちゃんを近くに感じられるのはすてきですね。

次に、校庭のピワを食べる楽しい場面から始まる、「大切にしたいぼくらの校庭」。「つまみ食い。」「大好評。」などの名詞止めが歯切れよく、いかにもやんちゃな雰囲気です。校庭を里山になぞらえているのも、おもし

ろい見方だと思いました。

「木がつなぐ素敵な未来」は、静かな文章の中に温かい母娘愛があふれていました。「高学年なのに頭をなでられるのははずかしい」といいながらも、命がけで産んでくれたお母さんの気持ちを受け止めます。「私も母のようにぬくもりがある木のいすに子供の成長を重ね、いすをなでる日が来るだろう」という結びに、ほろりとさせられました。

それから、「どんぐりの木」。未来の森のために「わたしでもできる活どうをやつていきたい」という言葉は、ジャン・ジオノの『木を植えた男』（どんぐりを植えて森をつくる物語）を思わせます。子どもたちが一心に拾い集めたどんぐりが、全国で森へと育っていく……胸が熱くなりました。

木の家や木製品への愛着、お父さんの仕事への誇り、木や自然への愛情など、それぞれの思いのこもった読み応えのある作品が、他にもたくさんありました。ひとりひとりに感想とお礼をお伝えできないのが残念です。みなさんの作文を読みながら幸せな時間を過ごしました。ありがとうございました。



国土交通省 住宅局 住宅生産課

木造住宅振興室長

前田 亮氏

入選した小学生のみなさん、大変おめでとうございます。生き生きとした手書きの文字や、消しゴムで消して黒くなった跡を見て、原稿用紙にむかつて鉛筆で二文字一文字、一生懸命書いているみなさんの姿を思い浮かべながら、楽しく読ませていただきました。

低学年の部の国土交通大臣賞受賞作は、「ひいおじいちゃんをつくつたいえ」です。大工のひいおじいちゃんがつくつた家、思い出いっぱいの家、阪神・淡路大震災でも生き残つた家、そんな大好きな家が周りの開発に伴って取り壊されてしまう。自分が遊んでいた思い出の木の品も持っていかれて悔しいけど、新しい持ち主のもとで使ってもらえる、自分も大事につないでいく

と考え直す。一人の小学生が、大好きな家の取り壊しという事態に直面して、心が揺れ動きながらも、前向きになって成長していく、感動さえ覚える作品です。

高学年の部の国土交通大臣賞受賞作は、「大工さんに教わったこと」です。建設途中の家の木の香り、木のけずりかすのさわり心地、それとともに、大工さんがやさしく接してくれたこと、完成したら見えなくなる柱に名前を書かせてもらったこと、大工さんが自分たちのために一生懸命作業してくれたことなど、5年前の記憶が、鮮明に、みずみずしく表現されています。木の家が大工さんの熱意や思いやりで作られていることを感じた作者が、自分の家を好きになり、また、自分も周りの人を幸せにしたいと思う。街で見かける一軒一軒の家にこのような作り手や住む人の思いが詰まっているのかな、と幸せな気持ちにさせてもらえる作品です。

このほかの作品についても、木や自然、木で作られた身近なものなどについて、小さな気づきを丁寧に掘り下げ、自分なりに考えて表現されており、いずれも個性豊かで素晴らしい作品ぞろいでした。来年も小学生のみなさんの素晴らしい作品と出会えることを期待しております。



独立行政法人 住宅金融支援機構

マンション・まちづくり支援部 技術統括室長

嘉藤 鋭氏

まわりにある木のことを作文した作品を、全国から数多く応募していただきました。誠にありがとうございました。皆さまの作品を読んでいくと、皆さまの想いにどんどん引き込まれ、その情景が鮮明に頭に浮かび、とても暖かい気持ちになりました。いずれの作品も力作で素晴らしい作品ばかりでした。

低学年の部の住宅金融支援機構理事長賞「まきストーブのあるくらし」は、お父さんがまきを二所懸命に準備する姿と、その作業を手伝う情景を見

事に描いています。アリとキリギリスの話を引用して何でもこんな面倒なことをしているのか、また、まきストーブで木をどんどん燃やすことに疑問を持ったことを上手に表現しています。お母さんの気持ちやお父さんの説明を聞いて疑問の答えをしつかり受け止め、山を大切にすることにも理解を深めています。このように、木とともに暮らしていきたいと願い、木のある幸せな暮らしを描いた素晴らしい作品です。

高学年の部の住宅金融支援機構理事長賞「家族を見守る大きな木」は、祖父の家に行った時、祖父の家の庭の大きな木、ハナミズキの存在を見事に描写し、祖父が木を大切にする思いが伝わってきます。小さいときに泣いたりすると抱っこしてその木と一緒に見ていた母の思い出や母が大事にしている写真に祖母と庭の木が写り、祖母の膝の上に抱っこされ、その周りに祖父、両親、叔母、叔父の優しい笑顔が溢れているエピソードは、木と家族の関係が深いことを丁寧に表現しています。このように、祖父の庭の大きなハナミズキを通じて、家族が繋がっていることを描いた素晴らしい作品です。

作文は、作文用紙を通じて作者の思いが読者に伝わります。用紙に書かれた文字一つ一つが作者の思いを届け、感動を与えてくれます。素晴らしい作文を、これからも書き続けてください。素敵な感動をみんなに届けることを期待しています。



朝日学生新聞社
取締役営業担当 兼 大阪支社長
今澤 勇氏

新聞記者もかおまけの取材力・観察力・表現力。

聞いたこと、調べたこと、感じたこと、さまざまな体験を通じてみなさん多くのこと学びながら、それらを作品の中にとってもいきいきと表現していました。どの作品も木のある暮らしの中の日常を、みずからの視点で丁寧に切り取った力作ばかりでした。

低学年の部の朝日学生新聞社賞「おとうさんのくつ下の木くず」は、木でドアを作るお父さんの仕事にまつわる家族のさりげないやりとりが描かれています。木のかおりやざらざら・ちくちくする木くずの風合いが、読んでいて直接伝わってくるようでした。お父さんの仕事を誇りに思い、感謝する気持ち。「私が大きくなったらおとうさんに木でできたメダルをあげたいです」。東京オリンピックの金メダルに負けないくらい、とても素敵な心のこもった最高の「木のメダル」ですね。

高学年の部の朝日学生新聞社賞「心地よい響きとは」は、「まな板」をめぐってお母さんとのエピソードです。母の日に白い樹脂製のまな板をお母さんにプレゼントします。でもなぜか使ってくれません。お母さんが長く愛用しているヒバのまな板にこだわる理由とは？親子の思いやりや戸惑いの複雑な心情が見事に表現されています。ストーリーの展開もスムーズで、「トントン」と心地よいまな板の響きを感じながら楽しく読みました。

今回の学生新聞社賞の2作品はともに木と家族の物語でした。家族の想いが「木くず」や「ヒバのまな板」を介してつながっていました。

どのような時代でも、木のぬくもりは人の心をいやしてくれます。受賞作に限らず、どの作品も思いやりや愛情あふれるものばかりで、審査をしながらも、とても心温まる思いがしました。

受賞されたみなさん、おめでとうございます。応募されたすべてのみなさんに感謝申し上げます。



一般社団法人日本木造住宅産業協会 専務理事
越海 興一氏

今年も素晴らしい作文がいっぱい届きました。応募いただいた小学生の皆さん、夏休み中よく頑張りました！そして受賞者の皆さん、本当におめでとうございます。多くの先生方の御理解御賛同を得て、学校教育の場に本コンクールを採り入れていただき感

謝申し上げます。

じっくり読ませていただくと、想ったより活発で行動的な内容の作品が多く、コロナ禍でも屋外で自然とふれあう機会の創出に努力されている保護者の皆様方に敬意を表します。健やかな成長とともに社会変化にもバランス良く適応し、情報技術の進展で広がるネット環境と、人や自然を実感するリアル環境と、それぞれの特長を上手に利用して時代の先端を走る子供たちの将来に大いに期待しております。

さて、カーボンニュートラル政策において、住宅や建築物をはじめ木材の幅広い活用に対し二酸化炭素の貯蔵効果が注目を集めています。山の樹木を切り出した後に植林しなければ、森林資源の循環利用とは言えません。応募いただいた皆さんは、種蒔きや植林、間伐、伐採から製材まで、そして木の家や家具、木製品に様々な「木のある暮らし」を見出し、それぞれ子供らしい素直な感性で生き生きと文章表現してくれました。この次は、是非ほかのお友達の商品も読んで、「木のある暮らし」で循環利用の「輪」をつなげてみてください。自分を含めた大きな「輪」は、日本文化を象徴する「和」にも通じる考え方です。

今年から新しく、毎年10月は「木材利用促進月間」となり、全国規模で「木づかい運動」「ウッド・チェンジ」など従来に増して活発な運動が展開されます。その一翼を担って、木住協の会員は、樹木の成長から伐採まで50年以上かかる循環に見合う長持ちする木造住宅の建設に取り組んでおります。引き続き、木を題材とする環境教育として本コンクールを協会あげて応援してまいります。

最後に、本コンクールにご後援をいただきました国土交通省、農林水産省、文部科学省、環境省、外務省、住宅金融支援機構、朝日学生新聞社、ならびに教育委員会はじめ学校関係の皆様、ご協力いただいた関係各位に厚く御礼申し上げます。また来年の応募をお待ちしております。

プロフィール

■はせがわ ゆうじ イラストレーター

名古屋生まれ。名古屋芸術大学卒。広告や出版のイラストを幅広く手がける。東京書籍国語教科書表紙、名古屋市母子手帳表紙、NHKみんなのうたアニメーションなど色鉛筆でほのぼのとした優しいタッチのイラストレーションで知られる。最近はパンダをペン画で描くキャラクターぱんだもんでLINEスタンプ、ポストカード、その他様々なグッズを展開中。著書に「ベンジャミンの空（サンリオ）他。朝日小学生新聞連載中。

■南雲 ゆりか（なぐも ゆりか） 南雲国語教室主宰

東京生まれ。横浜国立大学教育学部卒。横浜市立小学校教諭を経て大手進学塾へ。難関クラス指導と模試・教材の作成を担当した。都内で国語教室を主宰し、「正確に読む力、正確に伝える力」を motto に指導にあたっている。朝日新聞EduA「国語のチカラ」読解力・表現力の基本のき」連載中。著書に『名探偵コナンの12才までに身につけたい本物の漢字力1026字』（小学館）、「考える力がつく」『国語』勉強法（ダイヤモンド社）など。

■前田 亮（まえたりょう）

国土交通省 住宅局住宅生産課 木造住宅振興室長

■嘉藤 鋭（かとうさとし）

独立行政法人 住宅金融支援機構

マンション・まちづくり支援部 技術統括室長

■今澤 勇（いまざわいさむ）

朝日学生新聞社 取締役営業担当 兼大阪支社長

■越海 興一（こしづみ こういち）

一般社団法人日本木造住宅産業協会 専務理事



作文コンクール オンライン表彰式



木住協
越海専務理事



はせがわゆうじ
審査員長



国土交通省
宿本課長



木住協
市川晃会長



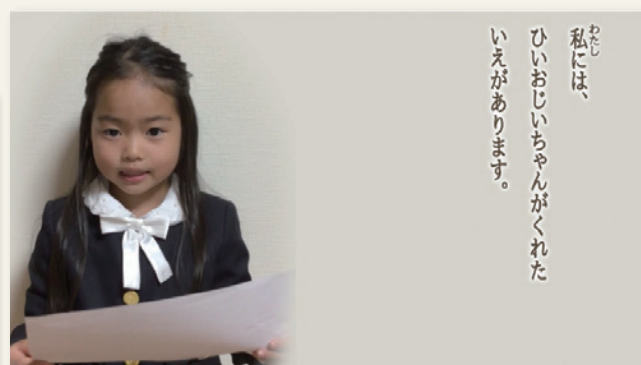
バーチャルスタジオとMC



リモート参加した受賞者の皆さん全員集合 スクリーンショット記念撮影



国土交通大臣賞高学年の部 矢野 有花さん
「大工さんに教わったこと」朗読動画



国土交通大臣賞低学年の部 田中 波音さん
「ひいおじいちゃんのつくったいえ」朗読動画



受賞者インタビューの様子

オンライン表彰式の様子は
協会ホームページから動画でご覧いただけます。▶
<https://www.mokujukyo.or.jp>



参加学校一覧



茨城県

いわき市立汐見が丘小学校
会津美里町立新鶴小学校
本宮市立糠沢小学校
会津坂下町立坂下南小学校
田村市立常葉小学校
いわき市立小名浜第一小学校
会津若松市立東山小学校
会津若松市立河東学園小学校
矢吹町立矢吹小学校
桜川市立大国小学校
阿見町立阿見小学校
常陸太田市立世矢小学校
石岡市立東成井小学校
鉾田市立上島西小学校
土浦市立下高津小学校
常陸太田市立里美小学校
坂東市立弓馬田小学校
石岡市立恋瀬小学校
ひたちなか市立勝倉小学校
つくば市立柳橋小学校
桜川市立岩瀬小学校
リリーベール小学校
結城市立結城小学校
水戸市立五軒小学校
筑西市立古里小学校
つくばみらい市立谷原小学校
石岡市立南小学校
筑西市立嘉田生崎小学校
常陸太田市立金砂郷小学校
筑西市立大田小学校
筑西市立河間小学校
常陸太田市立久米小学校
水戸市立河和田小学校
日立市立大久保小学校
坂東市立神大実小学校
古河市立古河第二小学校
常陸太田市立郡戸小学校
かすみがうら市立霞ヶ浦南小学校
龍ヶ崎市立八原小学校
筑西市立下館小学校
常総市立玉小学校
小美玉市立堅倉小学校
水戸市立稲荷第一小学校
日立市立坂本小学校
水戸市立吉沢小学校
水戸市立上中妻小学校
神栖市立大野原小学校
日立市立久慈小学校

福島県

相馬市立大野小学校
猪苗代町立猪苗代小学校
南相馬市立高平小学校
須賀川市立長沼小学校
郡山市立西田学園義務教育学校
中島村立滑津小学校
会津若松市立一箕小学校
郡山市立行徳小学校
二本松市立旭小学校
伊達市立月舘学園
白河市立五箇小学校
いわき市立錦東小学校
郡山市立高倉小学校
福島市立杉妻小学校
三春町立三春小学校
福島市立大森小学校
郡山ザベリオ学園小学校
棚倉町立近津小学校
桜の聖母学院小学校
いわき市立四倉小学校
本宮市立本宮まゆみ小学校
南会津町立田島小学校
会津若松市立城南小学校
泉崎村立泉崎第一小学校
福島市立南向台小学校
福島市立庭坂小学校
会津美里町立高田小学校
南相馬市立太田小学校
福島市立森合小学校
平田村立蓬田小学校
福島市立水保小学校
郡山市立大槻小学校
会津坂下町立坂下東小学校
喜多方市立第二小学校
いわき市立永崎小学校
郡山市立芳山小学校
いわき市立平第二小学校
白河市立表郷小学校
いわき市立植田小学校
福島市立佐原小学校
本宮市立和田小学校
福島市立笹谷小学校
西郷村立熊倉小学校
西郷村立小田倉小学校
いわき市立川部小学校
いわき市立平第四小学校
矢吹町立善郷小学校
須賀川市立第一小学校

北海道

美瑛町立明德小学校
愛別町立愛別小学校
富良野市立扇山小学校
石狩市立厚田学園
比布町立中央小学校
江別市立対雁小学校
北海道帯広盲学校

青森県

八戸市立種差小学校
弘前市立朝陽小学校
八戸市立西白山台小学校

岩手県

滝沢市立柳沢小学校

宮城県

聖ドミニコ学院小学校
大崎市立沼部小学校
ホライゾン学園仙台台小学校
大崎市立田尻小学校
仙台市立連坊小路小学校
石巻市立万石浦小学校
川崎町立川崎小学校
石巻市立向陽小学校
宮城教育大学附属小学校
気仙沼市立九条小学校
多賀城市立多賀城八幡小学校
石巻市立北村小学校
大和町立小野小学校
山元町立坂元小学校
富谷市立富谷小学校
大衡村立大衡小学校
白石市立白石第一小学校
涌谷町立月将館小学校

秋田県

鹿角市立大湯小学校
秋田県立視覚支援学校(小学部)

山形県

山形市立高瀬小学校
東根市立東根小学校
山形市立西山形小学校
米沢市立愛宕小学校
鶴岡市立豊浦小学校
寒河江市立寒河江中部小学校
天童市立長岡小学校
天童市立成生小学校
山形市立第一小学校
東根市立東根中部小学校
米沢市立興譲小学校
酒田市立琢成小学校
山形市立本沢小学校
天童市立山口小学校
山形市立千歳小学校

福島県

二本松市立渋川小学校
福島市立瀬上小学校

杉戸町立高野台小学校
さいたま市立辻小学校
久喜市立久喜小学校
さいたま市立鈴谷小学校
川口市立十二月田小学校
川口市立慈林小学校
久喜市立東鷲宮小学校
越谷市立大間野小学校
春日部市立八木崎小学校
さいたま市立大久保小学校
幸手市立上高野小学校
春日部市立牛島小学校
越谷市立新方小学校
熊谷市立熊谷西小学校
行田市立泉小学校
深谷市立榛沢小学校
幸手市立さくら小学校
入間市立西武小学校
さいたま市立大砂土小学校
春日部市立幸松小学校
川越市立芳野小学校
鴻巣市立吹上小学校
川越市立今成小学校
川越市立上戸小学校
三郷市立新和小学校
川越市立月越小学校
越谷市立越ヶ谷小学校
戸田市立新曽小学校
所沢市立牛沼小学校
和光市立北原小学校
鴻巣市立田間宮小学校
三郷市立丹後小学校
熊谷市立玉井小学校
深谷市立花園小学校
川越市立霞ヶ関小学校
志木市立宗岡第三小学校
春日部市立中野小学校
行田市立東小学校
羽生市立新郷第二小学校
千葉市立高浜海浜小学校
千葉市立誉田東小学校
千葉市立小中台南小学校
千葉市立蘇我小学校
千葉市立川戸小学校
国府台女子学院小学部
市原市立白金小学校
千葉市立更科小学校
千葉市立稲毛小学校
いすみ市立東海小学校
千葉市立鶴沢小学校
市川市立稲荷木小学校
船橋市立高根台第二小学校
千葉市立上の台小学校
千葉市立千城台みらい小学校

千葉県

高崎市立東部小学校
甘楽町立福島小学校
草津町立草津小学校
前橋市立桃瀬小学校
榛東村立北小学校
前橋市立城東小学校
安中市立西横野小学校
前橋市立時沢小学校
東吾妻町立太田小学校
安中市立原市小学校
前橋市立石井小学校
太田市立駒形小学校
伊勢崎市立北小学校
藤岡市立美九里西小学校
太田市立沢野中央小学校
みどり市立笠懸小学校
太田市立南小学校
前橋市立原小学校
明和町立明和西小学校
前橋市立宮城小学校
大泉町立北小学校
太田市立城西小学校
富岡市立小野小学校
東吾妻町立原町小学校
大泉町立西小学校
みどり市立笠懸東小学校
太田市立沢野小学校
大泉町立東小学校
安中市立細野小学校
甘楽町立新屋小学校
高山村立高山小学校

埼玉県

さいたま市立大砂土東小学校
本庄市立金屋小学校
さいたま市立見沼小学校
川越市立南古谷小学校
さいたま市立北浦和小学校
白岡市立白岡東小学校
上尾市立尾山台小学校
飯能市立加治東小学校
熊谷市立妻沼南小学校
北本市立南小学校
戸田市立戸田第一小学校
春日部市立上沖小学校
草加市立新田小学校
ふじみ野市立東台小学校
伊奈町立小室小学校
皆野町立三沢小学校
さいたま市立指扇北小学校
さいたま市立上里小学校
所沢市立林小学校
熊谷市立長井小学校
深谷市立深谷西小学校
鴻巣市立鴻巣東小学校
本庄市立旭小学校

那珂市立瓜連小学校
水戸市立浜田小学校
神栖市立須田小学校
龍ヶ崎市立馴馬台小学校
ひたちなか市立那珂湊第一小学校
水戸市立千波小学校
古河市立釈迦小学校
笠間市立大原小学校
笠間市立みなみ学園義務教育学校
鹿嶋市立豊郷小学校
筑西市立関城東小学校
常陸太田市立西小沢小学校
水戸市立城東小学校

栃木県

宇都宮市立ゆいの杜小学校
鹿沼市立清洲第一小学校
宇都宮市立西小学校
宇都宮市立石井小学校
大田原市立石上小学校
宇都宮市立宝木小学校
宇都宮市立桜小学校
日光市立大桑小学校
日光市立今市小学校
宇都宮市立城東小学校
上三川町立北小学校
宇都宮市立白沢小学校
宇都宮市立清原東小学校
日光市立落合東小学校
那須塩原市立南小学校
宇都宮市立田原西小学校
真岡市立長田小学校
足利市立南小学校
那須塩原市立鍋掛小学校
宇都宮市立岡本北小学校
渋川市立伊香保小学校
安中市立秋間小学校
太田市立毛里田小学校
伊勢崎市立南小学校
前橋市立元総社南小学校
安中市立安中小学校
富岡市立額部小学校
太田市立宝泉小学校
高崎市立寺尾小学校
高崎市立堤ヶ岡小学校
高崎市立新高尾小学校
沼田市立沼田北小学校
太田市立宝泉東小学校
高崎市立箕輪小学校
吉岡町立明治小学校
玉村町立芝根小学校
前橋市立粕川小学校
高崎市立塚沢小学校
みどり市立大間々北小学校
高崎市立佐野小学校
吉岡町立駒寄小学校

群馬県



逗子市立沼間小学校
川崎市立平小学校
横浜市立南瀬谷小学校
横浜市立中田小学校
横浜市立境木小学校
横浜市立奈良小学校
横浜市立瀬戸ヶ谷小学校
平塚市立大原小学校
横浜市立小机小学校
平塚市立八幡小学校
南足柄市立福沢小学校
湯河原町立湯河原小学校
横浜市立日隈山小学校
逗子市立池子小学校
横浜市立上大岡小学校
平塚市立山下小学校
横浜市立上末吉小学校
横浜市立杉田小学校
横浜市立綱島小学校
横浜市立大鳥小学校
神奈川県立平塚盲学校

新潟県

長岡市立岡南小学校
長岡市立太田小学校
長岡市立深沢小学校
糸魚川市立大野小学校
村上市立瀬波小学校
長岡市立青葉台小学校
糸魚川市立南能生小学校
新潟市立東青山小学校
上越市立保倉小学校
上越市立牧小学校
粟島浦村立粟島浦小学校
長岡市立栖吉小学校
五泉市立川東小学校

富山県

富山市立上条小学校
入善町立上青小学校

石川県

金沢市立湯涌小学校

福井県

鯖江市立片上小学校
坂井市立加戸小学校
福井市立本郷小学校
福井市立円山小学校
鯖江市河和田小学校
福井市立中藤小学校
坂井市立長畝小学校
永平寺町立御陵小学校
大野市立有終東小学校
勝山市立荒土小学校
福井市立河合小学校
福井市立豊小学校
勝山市立平泉寺小学校
福井市立殿下小学校
福井市立東藤島小学校
坂井市立春江小学校
南越前町立南条小学校

東京都

習志野市立大久保東小学校
習志野市立香澄小学校
市川市立平田小学校
国分寺市立第三小学校
府中市立府中第六小学校
渋谷区立加計塚小学校
神津島村立神津小学校
中野区立中野第一小学校
世田谷区立松沢小学校
世田谷区立玉堤小学校
町田市立町田第二小学校
東京創価小学校
板橋区立下赤塚小学校
府中市立府中第三小学校
日野市立日野第四小学校
小中一貫校 大南学園第七小学校
多摩市立東寺方小学校
板橋区立蓮根第二小学校
北区立浮間小学校
日野市立潤徳小学校
品川区立八潮学園義務教育学校
青梅市立成木小学校
江東区立浅間竪川小学校
江東区立毛利小学校
大島町立さくら小学校
東京学芸大学附属世田谷小学校
新宿区立市谷小学校
江東区立数矢小学校
江東区立枝川小学校
日本聾話学校

神奈川県

厚木市立小鮎小学校
海老名市立上星小学校
横浜市立今井小学校
相模原市立谷口台小学校
相模原市立鹿島台小学校
横浜市立小山台小学校
川崎市立大谷戸小学校
相模原市立共和小学校
横浜市立港北小学校
川崎市立菅生小学校
横浜市立青木小学校
大和市立林間小学校
横浜市立鳥が丘小学校
横浜市立桂小学校
横浜市立もえぎ野小学校
川崎市立中野島小学校
横浜市立山下小学校
横浜市立今宿南小学校
川崎市立千代ヶ丘小学校
川崎市立小杉小学校
横浜市立中尾小学校
鎌倉市立深沢小学校
横浜市立日枝小学校
横浜市立桜台小学校

千葉市立都賀小学校
松戸市立穂台小学校
千葉市立都賀の台小学校
我孫子市立我孫子第一小学校
船橋市立田喜野井小学校
勝浦市立勝浦小学校
大網白里市立大網東小学校
千葉市立幸町小学校
千葉市立稲毛第二小学校
千葉市立宮野木小学校
千葉市立おゆみ野南小学校
千葉市立磯辺小学校
千葉市立作新小学校
船橋市立薬円台小学校
千葉市立仁戸名小学校
千葉市立稲浜小学校
我孫子市立我孫子第三小学校
成田市立平成小学校
野田市立山崎小学校
野田市立川間小学校
松戸市立東松戸小学校
千葉市立松ヶ丘小学校
柏市立手賀西小学校
成田市立公津の杜小学校
船橋市立宮本小学校
栄町立竜角寺台小学校
柏市立増尾西小学校
千葉市立高浜第一小学校
佐倉市立上志津小学校
千葉市立花園小学校
印西市立小倉台小学校
木更津市立真舟小学校
千葉市立草野小学校
柏市立手賀東小学校
酒々井町立酒々井小学校
千葉市立真砂東小学校
八千代市立勝田台南小学校
千葉市立西小中台小学校
佐倉市立井野小学校
柏市立西原小学校
柏市立中原小学校
印西市立高花小学校
柏市立柏第五小学校
いすみ市立夷隅小学校
千葉市立畑小学校
九十九里町立豊海小学校
市川市立大洲小学校
浦安市立日の出小学校
富里市立富里南小学校
松戸市立馬橋小学校
習志野市立東習志野小学校
習志野市立谷津南小学校
習志野市立袖ヶ浦西小学校
我孫子市立我孫子第四小学校

草津市立草津第二小学校
長浜市立長浜小学校
草津市立矢倉小学校
東近江市立山上小学校
草津市立志津小学校
東近江市立箕作小学校
野洲市立祇王小学校
守山市立吉身小学校
東近江市立能登川東小学校
東近江市立八日市南小学校
大津市立比叡平小学校
甲賀市立伴谷東小学校
甲賀市立貴生川小学校
甲賀市立油日小学校
栗東市立葉山小学校
湖南市立下田小学校
大津市立志賀小学校
大津市立瀬田北小学校
長浜市立木之本小学校
野洲市立野洲小学校
甲賀市立佐山小学校
大津市立大石小学校
甲賀市立綾野小学校
愛荘町立愛知川東小学校
大津市立長等小学校
長浜市立南郷里小学校
守山市立物部小学校
草津市立笠縫東小学校
甲賀市立水口小学校
ノートルダム学院小学校
亀岡市立亀岡川東学園
大阪市立長吉南小学校
茨木市立東奈良小学校
大阪市立十三小学校
熊取町立中央小学校
大阪市立西九条小学校
大阪市立浪速小学校
大阪市立高松小学校
八尾市立北山本小学校
大阪市立焼野小学校
大阪市立長吉東小学校
大阪市立長吉出戸小学校
大阪市立小松小学校
大阪市立五条小学校
大阪市立大江小学校
河内長野市立高向小学校
大阪市立刈田小学校
東大阪市立英田北小学校
大阪市立磯路小学校
堺市立さつき野小学校
大阪市立春日出小学校
大阪市立玉出小学校
大阪市立伝法小学校
大阪市立喜連小学校

京都府

大阪府

静岡市立城北小学校
静岡市立清水不二見小学校
静岡市立清水庵原小学校
静岡市立清水飯田小学校
静岡市立清水三保第一小学校
焼津市立東益津小学校
浜松市立都田南小学校
浜松市立豊岡小学校
浜松市立伊目小学校
浜松市立佐鳴台小学校
浜松市立大平台小学校
熱海市立第一小学校
静岡市立清水有度第二小学校
静岡市立井宮小学校
常葉大学教育学部附属橘小学校
静岡サレジオ小学校
岡崎市立豊富小学校
豊橋市立豊南小学校
蒲都市立中央小学校
蒲都市立塩津小学校
蒲都市立三谷東小学校
岡崎市立梅園小学校
蒲都市立形原北小学校
蒲都市立三谷小学校
新城市立東陽小学校
蒲都市立蒲郡東部小学校
豊川市立天王小学校
岡崎市立緑丘小学校
蒲都市立蒲郡南部小学校
名古屋市立大高北小学校
豊田市立若林西小学校
いなべ市立治田小学校
多気町立勢和小学校
松阪市立香肌小学校
津市立香良洲小学校
桑名市立大山田北小学校
東近江市立市原小学校
草津市立常盤小学校
彦根市立城北小学校
彦根市立佐和山小学校
彦根市立城陽小学校
彦根市立稲枝東小学校
近江八幡市立沖島小学校
湖南市立菩提寺小学校
野洲市立中主小学校
東近江市立能登川南小学校
甲賀市立伴谷小学校
長浜市立永原小学校
甲賀市立甲南第一小学校
豊郷町立豊郷小学校
東近江市立五個荘小学校
長浜市立浅井小学校
大津市立坂本小学校
草津市立笠縫小学校

愛知県

三重県

滋賀県

福井市木田小学校
福井市立松本小学校
福井県立福井東特別支援学校五領分教室
都留市立旭小学校
富士吉田市立明見小学校
駿台甲府小学校
丹波山村立丹波小学校
富士吉田市立吉田西小学校
塩尻市立宗賀小学校
才教学園小学校
小布施町立栗方丘小学校
岡谷市立長地小学校
長野市立豊野西小学校
長野市立共和小学校
松本市立今井小学校
松本市立旭町小学校
中野市立中野小学校
軽井沢町立軽井沢中部小学校
下諏訪町立下諏訪北小学校
長野市立川中島小学校
川上村立川上第一小学校
上田市立神科小学校
長野市立戸隠小学校
長野市立綿内小学校
伊那市立東春近小学校
松本市立梓川小学校
岡谷市立上原小学校
東御市立称津小学校
長野市立芹田小学校
長野市立信州新町小学校
岡谷市立小井川小学校
長野市立古里小学校
大町市立大町西小学校(支援学級)
下呂市立竹原小学校
岐阜市立長良東小学校
岐阜市立長良小学校
各務原市立鷺沼第一小学校
垂井町立府中小学校
岐阜市立加納西小学校
瑞穂市立中小学校
中津川市立付知北小学校
可児市立旭小学校
下田市立下田小学校
森町立飯田小学校
富士宮市立富士根南小学校
掛川市立原田小学校
静岡市立清水穴原小学校
静岡市立梅ヶ島小中学校
磐田市立豊田北部小学校
磐田市立豊田南小学校
静岡市立清水岡小学校
静岡市立伝馬町小学校
静岡市立宮竹小学校
浜松市立伊佐見小学校

山梨県

長野県

岐阜県

静岡県



岡山市立操明小学校
岡山市立平島小学校
岡山市立幸島小学校
倉敷市立連島南小学校
岡山市立芳明小学校
岡山市立箕島小学校
岡山市立旭操小学校
玉野市立八浜小学校
倉敷市立児島小学校
倉敷市立本荘小学校
岡山市立三門小学校
備前市立伊部小学校
岡山市立江西小学校
倉敷市立琴浦北小学校
倉敷市立第三福田小学校
倉敷市立乙島東小学校
倉敷市立上成小学校
岡山市立中山小学校
岡山市立南輝小学校
倉敷市立長尾小学校
美作市立英田小学校
岡山市立第一藤田小学校
岡山市立幡多小学校
倉敷市立中島小学校
岡山市立政田小学校
倉敷市立玉島南小学校
倉敷市立第二福田小学校
岡山市立西大寺南小学校
呉市立音戸小学校
廿日市市立阿品台西小学校
東広島市立郷田小学校
広島市立原南小学校
三原市立深小学校
周南市立久米小学校
下関市立小串小学校
周南市立戸田小学校
下関市立豊北小学校
下松市立花岡小学校
佐那河内村立佐那河内小学校
三好市立東祖谷小学校
三好市立芝生小学校
美馬市立穴吹小学校
鳴門市第一小学校
吉野川市立森山小学校
徳島市内町小学校
徳島文理小学校
徳島市立国府小学校
吉野川市立高越小学校
三好市立山城小学校
徳島市佐古小学校
那賀町立相生小学校
丸亀市立城坤小学校
さぬき市立志度小学校
高松市立新番丁小学校

広島県

山口県

徳島県

香川県

姫路市立中寺小学校
太子町立太田小学校
姫路市立広畑第二小学校
加古川市立野口北小学校
加古川市立東神吉南小学校
加古川市立平岡東小学校
神戸市立本庄小学校
市川町立瀬加小学校
神戸市立桂木小学校
神戸市立六甲アイランド小学校
淡路市立一宮小学校
川西市立川西小学校
神戸市立渦が森小学校
太子町立斑鳩小学校
稲美町立天満東小学校
高砂市立北浜小学校
近畿大学附属小学校
奈良市立平城西小学校
奈良市立田原小学校
生駒市立生駒南第二小学校
生駒市立鹿ノ台小学校
奈良市立飛鳥小学校
奈良市立青和小学校
大和高田市立高田小学校
橿原市立畝傍南小学校
上牧町立上牧第三小学校
奈良市立大安寺西小学校
大和高田市立磐園小学校
橿原市立畝傍東小学校
葛城市立新庄小学校
曽爾村立曽爾小中学校
橋本市立西部小学校
橋本市立橋本小学校
日高川町立山野小学校
和歌山市立紀伊小学校
和歌山市立雑賀小学校
和歌山市立岡崎小学校
智辯学園和歌山小学校
岩出市立上岩出小学校
岩出市立山崎小学校
和歌山市立中之島小学校
橋本市立三石小学校
倉吉市立関金小学校
隠岐の島町立都万小学校
倉敷市立沙美小学校
倉敷市立琴浦東小学校
総社市立池田小学校
倉敷市立味野小学校
倉敷市立緑丘小学校
倉敷市立倉敷東小学校
岡山市立牧石小学校
倉敷市立連島北小学校
岡山市立第二藤田小学校
岡山市立伊島小学校

奈良県

和歌山県

鳥取県

岡山県

大阪市立長居小学校
八尾市立曙川東小学校
大阪市立阿倍野小学校
大阪市立東三国小学校
河内長野市立長野小学校
枚方市立西長尾小学校
大阪市立築港小学校
大阪市立玉造小学校
東大阪市立立舎衛東小学校
枚方市立氷室小学校
大阪市立清水小学校
大阪市立安立小学校
大阪市立南恩加島小学校
茨木市立玉島小学校(特別支援学級)
加古川市立氷丘小学校
姫路市立城北小学校
姫路市立香呂南小学校
姫路市立手柄小学校
多可町立中町南小学校
加西市立富田小学校
姫路市立広畑小学校
明石市立花園小学校
姫路市立東小学校
神戸市立北須磨小学校
加古川市立尾上小学校
神戸市立南落合小学校
尼崎市立大島小学校
姫路市立城陽小学校
姫路市立高岡小学校
姫路市立大津小学校
姫路市立城乾小学校
神河町立神崎小学校
明石市立山手小学校
姫路市立糸引小学校
小野市立河合小学校
神戸市立藤原台小学校
高砂市立荒井小学校
神戸市立泉台小学校
姫路市立砥堀小学校
神戸市立こうべ小学校
神戸市立山田小学校
神戸市立大沢小学校
西宮市立東山台小学校
姫路市立伊勢小学校
姫路市立香呂小学校
加西市立賀茂小学校
加古川市立平岡小学校
神戸市立千鳥が丘小学校
神戸市立御影北小学校
姫路市立花田小学校
神戸市立福住小学校
神戸市立小寺小学校
神戸市立御影小学校
明石市立魚住小学校

兵庫県

霧島市立宮内小学校
鹿児島市立宮川小学校
鹿児島市立紫原小学校
肝付町立高山小学校
鹿児島市立名山小学校
いちき串木野市市来小学校
鹿児島市立玉江小学校
志布志市立有明小学校
鹿児島市立八幡小学校
鹿児島市立松元小学校
鹿児島市立武小学校
鹿屋市立輝北小学校
鹿児島市立谷山小学校
湧水町立栗野小学校
霧島市立小野小学校
志布志市立志布志小学校
屋久島町立金岳小学校
曾於市立月野小学校
始良市立加治木小学校
和泊町立内城小学校
瀬戸内町立伊子茂小学校
鹿児島市立大明丘小学校
鹿児島市立桜丘西小学校
鹿児島市立東谷山小学校
豊見城市立座安小学校
うるま市立兼原小学校
広州日本人学校 小学部
共益法人 フランクフルト日本人国際学校
オークランド日本語補習学校
立教英国学院
蘇州日本人学校
ホーチミン日本人学校

沖縄県

海外

長崎県

熊本県

大分県

宮崎県

鹿児島県

吉野ヶ里町立三田川小学校
佐賀市立循誘小学校
嬉野市立吉田小学校
鳥栖市立旭小学校
佐賀市立諸富北小学校
鳥栖市立鳥栖小学校
唐津市立相知小学校
諫早市立喜々津東小学校
雲仙市立神代小学校
佐世保市立港小学校
諫早市立御館山小学校
佐世保市立木風小学校
長崎南山小学校
長崎市立小島小学校
雲仙市立小浜小学校
対馬市立乙宮小学校
長崎市立小櫛小学校
諫早市立西諫早小学校
熊本市立日吉小学校
宇土市立宇土小学校
熊本市立花園小学校
南阿蘇村立南阿蘇西小学校
宇土市立花園小学校
水俣市立袋小学校
天草市立本渡南小学校
山鹿市立鹿本小学校
熊本市立高平台小学校
産山村立産山学園
あさぎり町立上小学校
南関町立南関第一小学校
天草市立栖本小学校
佐伯市立明治小学校
臼杵市立下ノ江小学校
日出町立日出小学校
大分市立大在小学校
椎葉村立尾向小学校
五ヶ瀬町立鞍岡小学校
延岡市立上南方小学校
日南市立榎原小学校
南九州市立霜出小学校
鹿児島市立西伊敷小学校
南さつま市立阿多小学校
鹿児島市立喜入小学校
霧島市立小浜小学校
鹿児島市立花野小学校
南大隅町立神山小学校
さつま町立盈進小学校
鹿児島市立中山小学校
枕崎市立別府小学校
曾於市立岩川小学校
鹿児島市立西紫原小学校
始良市立重富小学校
始良市立始良小学校
霧島市立国分西小学校

愛媛県

高知県

福岡県

今治市立常盤小学校
今治市立鳥生小学校
大洲市立平野小学校
今治市立波止浜小学校
大洲市立粟津小学校
大洲市立平小学校
西条市立小松小学校
大洲市立菅田小学校
松山市立久枝小学校
黒潮町立南郷小学校
南国市立十市小学校
高知市立朝倉第二小学校
春日市立春日東小学校
筑紫野市立天拝小学校
北九州市立桜丘小学校
春日市立天神山小学校
北九州市立三郎丸小学校
太宰府市立太宰府西小学校
福岡市立賀茂小学校
春日市立大谷小学校
大牟田市立上内小学校
北九州市立足立小学校
福岡市立当仁小学校
太宰府市立太宰府南小学校
久山町立山田小学校
須恵町立須恵第三小学校
古賀市立小野小学校
古賀市立花見小学校
福岡市立原小学校
筑後市立筑後北小学校
北九州市立曾根東小学校
大野城市立大野北小学校
宇美町立桜原小学校
みやこ町立黒田小学校
北九州市立小石小学校
大野城市立大野南小学校
春日市立須玖小学校
北九州市立西門司小学校
大野城市立大野小学校
豊前市立宇島小学校
北九州市立貫小学校
北九州市立松ヶ江南小学校
北九州市立中井小学校
久留米市立大城小学校
古賀市立千鳥小学校
春日市立春日北小学校
大野城市立大利小学校
北九州市立寿山小学校
春日市立春日南小学校
福岡市立東月隈小学校
佐賀大学教育学部附属小学校
佐賀市立勸興小学校
鹿島市立明倫小学校
武雄市立北方小学校

佐賀県

団体応募校を中心に掲載しています。
学校名については厳正に確認しておりますが、
万一間違いがあった場合はご容赦ください。

<https://www.mokujukyo.or.jp>

木住協

検索



©yujix



一般社団法人

日本木造住宅産業協会

〒106-0032 東京都港区六本木1-7-27 全特六本木ビル WEST棟2階

電話 **03-5114-3010**(代) FAX 03-5114-3020

第24回「木のある暮らし」作文コンクール 入選作品集 ●2021年12月 ●編集・発行／一般社団法人 日本木造住宅産業協会 業務・広報部